

# 目 次

はじめに	2
<b>I 博物館概要</b>	
○設置目的	3
○基本的性格と方針	3
○沿革	4
○施設・設備	5
<b>II 平成9年度 組織・運営</b>	
○組織	7
○事業計画	7
<b>III 平成8年度のあゆみ</b>	
○職員	9
○日誌抄	10
○岐阜県博物館協議会	10
○実施事業の概要	11
○常設展示の入れ替え	12
○記念展	
1 「恐竜のふるさとユタ」	13
2 「岐阜県の明治維新」	14
○資料紹介展	
「海拔0 mから3000 mへの旅」	15
○特別陳列	
「ふるさとの文化財紹介展」	16
○マイミュージアムギャラリーの展示	17
○財岐阜県文化財保護センター速報展	19
○友好提携調印	19
○調査研究・資料収集活動	
自然部門	20
人文部門	25
マイ・ミュージアム部門	
1 マルチメディア情報センター	26
2 マルチメディア工房	27
3 ハイパーハイビジョン風土記中山道制作	28
○教育普及活動	29
○図書資料寄贈者芳名一覧	33
○利用状況	36
○博物館関係団体	36
<b>IV 利用案内</b>	38

## はじめに

昭和51年5月、人文・自然の総合博物館として開館した岐阜県博物館は、平成7年7月、マルチメディア情報センターとしての機能をもつマイ・ミュージアムが完成し、「であい楽しい情報ステーション」をキーワードに、県民だれもが参加できる楽しいタイプの博物館として拡充発展し、平成8年をもって、20周年を迎えました。

夏の特別展を開館20周年記念展とし、アメリカ、ユタ州の協力で「恐竜のふるさとユタ」を開催し、ユタ州の自然と恐竜化石を紹介し、大変好評でした。また、恐竜化石を通じての国際交流に基づき、ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と友好提携の調印をしました。今後の学術共同調査が期待されます。

秋の特別展は、飛騨美濃合併120周年記念事業の一環として記念展「岐阜県の明治維新」を開催し、時宜を得た展示として高い評価を受けました。この機会に、博物館友の会との共催で、文化講演会を岐阜市で開催し、幅広い県民の参加を得ました。

資料紹介展「海拔0mから3000mへの旅」、特別陳列「ふるさとの文化財紹介展－美濃地区－」さらにマイミュージアムギャラリーの展示もそれぞれ好評でした。特に出展者が作品制作の実演や講座、展示解説等をされ、県民参加のギャラリー展示でした。また、県文化財保護センターの速報展「よみがえる縄文の世界」の開催も博物館にふさわしい展示で、今後の展示に一つの方向を示すものでした。

マルチメディア工房の活用もさかんで、制作された作品がコンクールで高い評価を受けており、手づくりのハイビジョンソフトも増えてきました。

平成9年度は、春の特別展「花と鳥のイリュージョン」、秋の特別展「薬草のふるさと伊吹」、資料紹介展「大垣内貝類コレクション」、「世界の民俗資料紹介展」、特別陳列「ふるさと文化財紹介展－可茂地区－」、出土遺物速報展「土に刻まれた古代・中世」さらにマイミュージアムギャラリーの展示を8回企画し、多彩で楽しく、質の高い展示になるよう努めています。

教育普及活動は、3年目を迎えた「恐竜ゼミナール」のほか多様な「自然観察会」「たのしい博物館」「博物館講座」を開催し、幼児から高齢者までだれもが楽しめる生涯学習の場を提供します。

ここに、平成8年度の事業の記録と平成9年度の事業計画の概要を紹介する館報20号を刊行しました。ご高覧いただき、ご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

平成9年4月1日

岐阜県博物館長 高 田 晃

# I 博物館概要

## 〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て、新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

## 〔基本的性格と方針〕

### 1 基本的性格

- ・ 岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）・自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究およびそれらの活用を図る総合博物館とする。
- ・ 県内外の博物館および相当施設との活発な交流を図るとともに、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。
- ・ 学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。
- ・ 「ハイパーハイビジョン風土記」を主とした博物館情報を制作し、マルチメディアシステムによる情報の収集、加工、発信、受信を行い、情報化社会に対応した博物館を目指す。
- ・ 資料の収集および保存並びに展示に関する専門的な調査研究を推進する。

### 2 基本方針

#### (1) 資料収集

県内の人文・自然等に関する資料を収集する。資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

#### (2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度なものとする。特別展示は、特定の企画とテーマを設けて、展示をする。

展示の方法は、(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示 (イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示 (ウ)総合的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示 (エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種

類の資料も活用 (オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備 (カ)明確で分かりやすい解説とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

#### ○人文展示室1（人文総合展示）

主題「郷土のあゆみ」—原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。

#### ○人文展示室2（人文課題展示）

主題「郷土の民俗と美術工芸」—特色ある郷土の民俗と美術工芸を部門別、時代別に展示する。

#### ○自然展示室1（自然総合展示）

主題「郷土の自然とおいたち」—郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。

#### ○自然展示室2（自然課題展示）

主題「郷土のさまざまな自然」—特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

#### ○特別展示室（特別展示）

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

### (3) 調査研究

- ・ 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行う。
- ・ 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行う。

### (4) マイ・ミュージアム(マルチメディア情報センター)

#### ・マイミュージアムギャラリー

個人などによって収集、所蔵されているコレクションを公開展示する。また、生涯学習の成果発表の場など多様な活用を図り、県民文化の交流の拠点とする。

#### ・ハイビジョンホール

ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」により、岐阜県の歴史、文化、産業、自然などをハイビジョンで提供するほか、各種のハイビジョンソフトやハイビジョン放送を放映する。また、マルチメディア情報機器を活用し、各種の講演、研修会等の場とする。

#### ・マルチメディアスタジオ

ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」を一人ひとりが自在に検索し、楽しみながら学習できる場とする。

また、マルチメディア機器の利用提供や技術的支援により県民のソフトづくりの工房（“マルチメディア工房・ぎふ”）としての役割を拡大する。

## 〔沿革〕

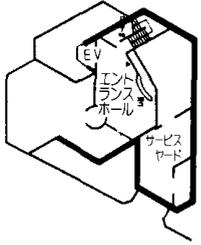
昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	設置	4月	特別展「飛驒のあけぼの—交流する縄文・古代人—」		
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	昭和60年4月	7月	特別展「恐竜王国・恐竜—謎とロマン—」		
6～9月	博物館懇談会を設ける	7月	特別展「鉱物の世界」	10月	特別展「近世に輝く濃飛の群像」	
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会を設ける	10月	特別展「美濃の刀剣」 入館者100万人を突破	平成5年3月	入館者150万人を突破	
昭和48年8月	起工式挙行	12月	自然展示室IIを改装	4月	特別展「土と炎の芸術」	
昭和49年3月	展示実施計画樹立	昭和61年4月	7月	特別展「土と炎の芸術」 29日大型ほ乳類足跡化石を美濃加茂市で発掘		
10月	定礎式	7月	特別展「奥飛驒の自然」	9月	特別展「失われゆく植物」	
昭和50年3月	展示工事着手	9月	人文展示室Iを改装	10月	「ハイパーハイビジョン風土記」イメージシュミレーションソフトの完成	
7月	本館建築竣工	10月	開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」	11月	20日マイ・ミュージアム棟起工式	
昭和51年1月	展示工事完了	昭和62年4月	特別展「濃飛の弥生時代」 入館者110万人を突破	平成6年1月	3月	大型ほ乳類足跡化石を展示
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了	7月	特別展「外国から侵入した生きものたち」	4月	特別展「川に生きる—水運と漁業—」	
5月	開館記念式典挙行 一般公開 「巨匠三人展」・「スポーツ栄光展」	10月	特別展「飛驒の匠」 川徳山村民家移築復元	8月	恐竜の歯等荏川村で発見	
7月	皇太子・同妃殿下啓	昭和63年1月	自然展示室Iを改装	9月	特別展「美濃山地の自然」	
8月	特別展「ふるさとの文楽」 入館者10万人を突破	4月	特別展示室ショーケース改修	10月	入館者160万人を突破	
10月	入館料徴収開始	7月	特別展「ふるさとの湿原」 中部未来博'88記念展「中山道—美濃十六宿—」	12月	ユタ州訪問（花フェスタ'95展示化石の借用、交流の推進）	
11月	特別展「熊谷守一展」	10月	特別展「中生代の化石」 入館者120万人を突破	平成7年3月	マイ・ミュージアム棟工事の完成	
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」 入館者20万人を突破	平成元年4月	特別展「濃飛の古墳時代」	ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」美濃路編ソフト完成		
7月	特別展「郷土の化石展」	7月	特別展「ふるさとの野鳥」	4月	特別展「岐阜の淡水魚」 花フェスタ'95にユタ州恐竜化石を展示	
11月	特別展「鉄斎」	8月	16日恐竜足跡化石白川村で発見	7月	マイ・ミュージアム（マルチメディア情報センター）落成式典挙行 一般公開	
昭和53年4月	入館者30万人を突破 特別展「濃飛の甲冑」	10月	特別展「移ろいゆく年中行事」	8月	恐竜ゼミナールGIFU'95開催	
7月	特別展「世界のコガネムシ」	11月	日本生命財団から図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈を受ける	10月	特別展「美濃・飛驒の古代史発掘—律令国家の時代—」 入定三百年記念「円空展」（名古屋市と共催） 県下第1号として「マルチメディア工房・ぎふ」開設	
10月	特別展「能面と装束」	平成2年4月	特別展「輪中と治水」	11月	円空シンポジウム「世界における円空」	
昭和54年4月	入館者40万人突破 特別展「濃飛の先史時代」	7月	特別展「白山の自然」 「恐竜足跡化石レプレカ」除幕式 グリーンアドベンチャー標識設置（自然観察のこみち）岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問	平成8年5月	入館者170万人を突破	
7月	特別展「世界の貝」	10月	特別展「濃飛の仙像」	7月	開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」	
10月	特別展「濃飛の文人」	12月	岐阜県博物館協議会から中間答申	8月	アメリカ合衆国ユタ州ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と友好提携調印式挙行	
11月	「視覚障害者（触察）コーナー」開設	平成3年3月	岐阜県博物館案内標識を設置	10月	飛驒美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」	
昭和55年4月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」	4月	特別展「ふるさとの木の文化」	11月	飛驒美濃合併120周年記念「文化講演会」 講師 作家 阿川弘之氏 作家 山田智彦氏	
5月	入館者50万人を突破	7月	特別展「ふるさとの哺乳動物」	平成9年3月	ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」中山道編ソフト完成	
7月	特別展「化石の世界」	10月	置県120年・岐阜鹿児島姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」			
10月	特別展「叢虫山人」	11月	入館者140万人を突破			
昭和56年4月	特別展「美濃の絵馬」	平成4年3月	岐阜県博物館協議会から「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方について」答申			
5月	入館者60万人を突破					
7月	特別展「御岳山は生きている」					
10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」					
昭和57年4月	特別展「高賀山の信仰」 入館者70万人突破					
7月	特別展「ふるさとの植物」					
10月	特別展「東洋の貨幣」					
昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」					
5月	入館者80万人を突破					
7月	特別展「長良川」					
10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」					
昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」					
7月	特別展「ふるさとの昆虫」					
8月	入館者90万人を突破					
10月	学習ビデオスタジオコーナー					

〔施設・設備〕

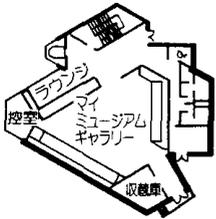
1 博物館

調整室 (ホール吹抜き)

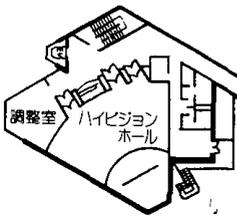
マイ・ミュージアム  
1階



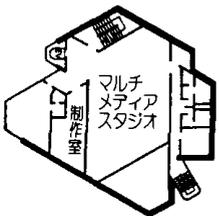
マイ・ミュージアム  
2階



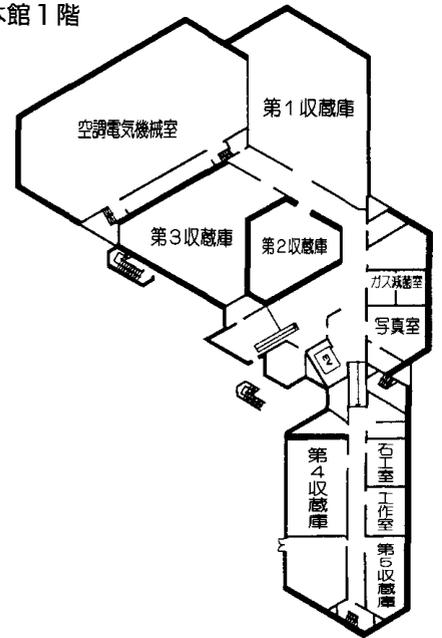
マイ・ミュージアム  
3階



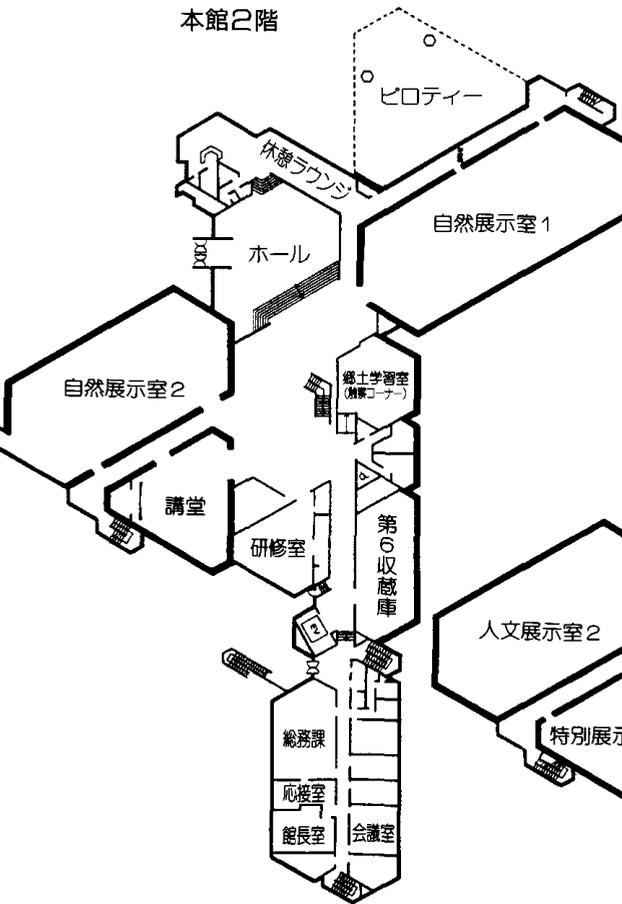
マイ・ミュージアム  
4階



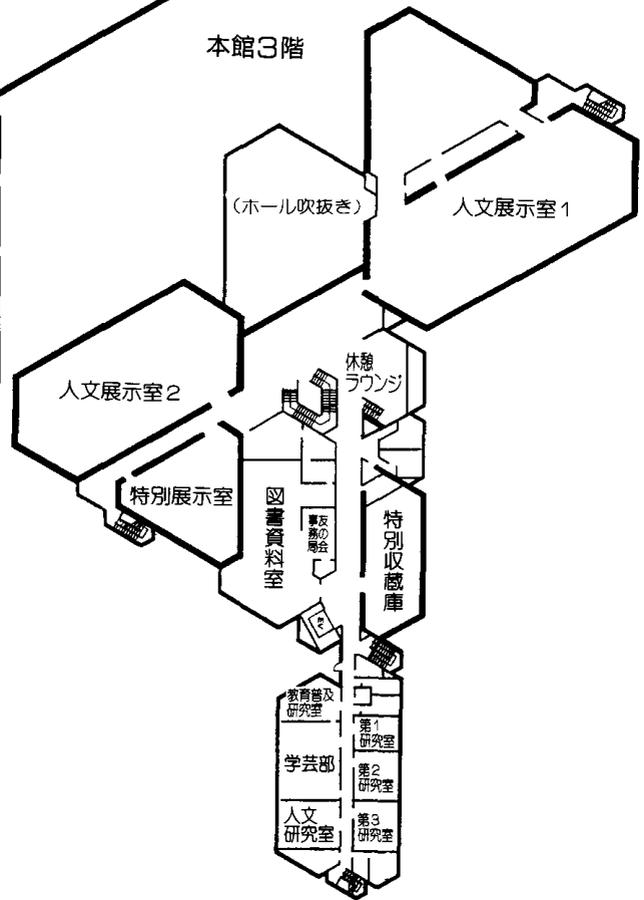
本館1階



本館2階



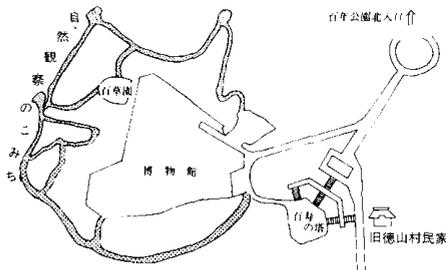
本館3階



・主要室名及び面積

本館	室名	面積(m <sup>2</sup> )	ミュージアム	室名	面積(m <sup>2</sup> )	
1階	第1収蔵庫	314.1	1階	エントランスホール	76.0	
	第2収蔵庫	126.0		2階	ミュージアムギャラリー	202.3
	第3収蔵庫	192.0			収蔵庫	25.3
	第4収蔵庫	99.4	3階	ハイビジョンホール	192.3	
	第5収蔵庫	55.0		調整室	47.0	
2階	自然展示室I	583.8	4階	マルチメディアスタジオ	206.3	
	自然展示室II	478.8		制作室	31.2	
	郷土学習室	95.4		応接室	43.8	
	講義修蔵	174.5				
	研修第6収蔵	93.2				
		142.8				
3階	人文展示室I	942.2				
	人文展示室II	478.8				
	特別展示室	193.2				
	図書資料室	232.0				
	特別収蔵庫	142.8				

2 館外施設



(1) 自然観察のこみち

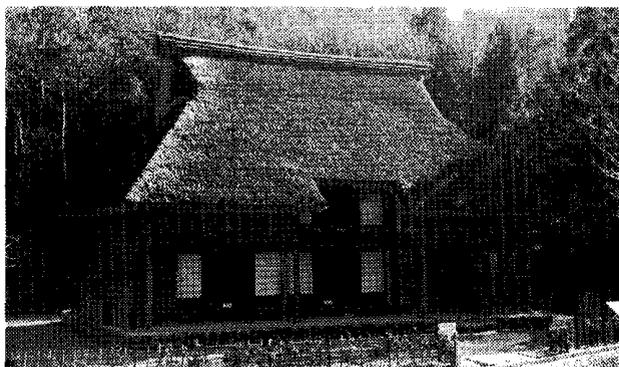
館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

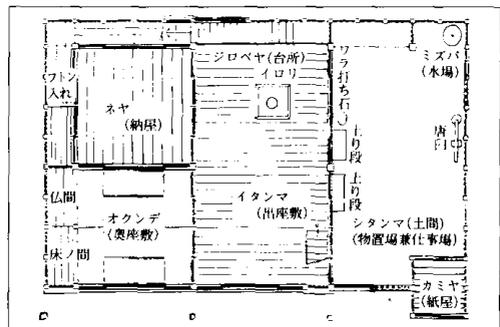
なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木にQ&Aパネルを設置している。

(2) 旧徳山村民家

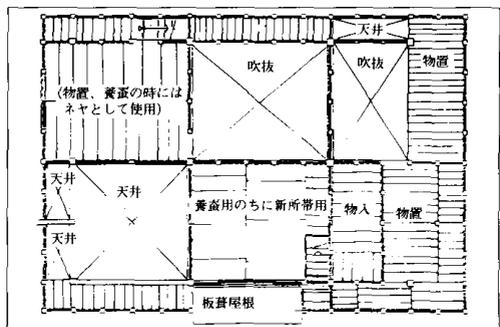
徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し、無料開放している。



- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 プナ・トチ
- ・建面積 120.97m<sup>2</sup>
- ・延面積 197.48m<sup>2</sup>
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲ 1階間取り図



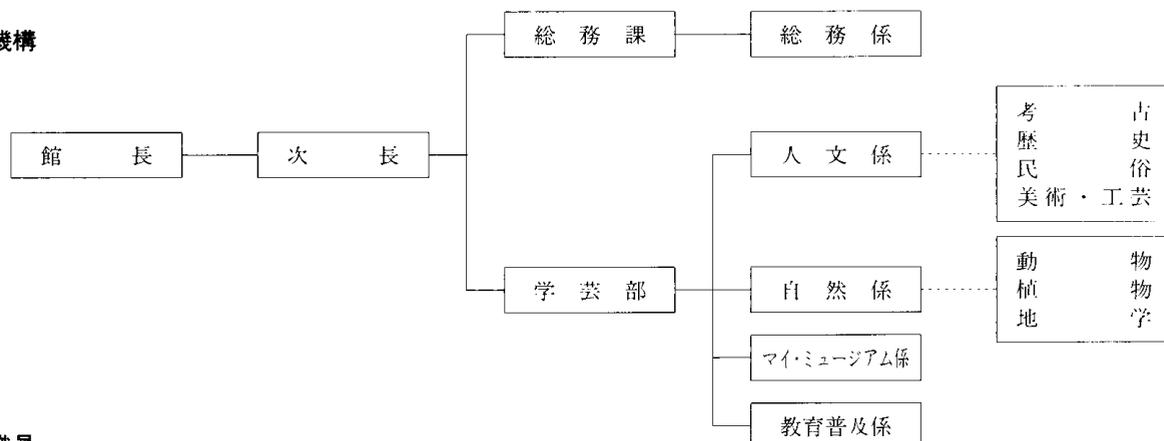
▲ 2階間取り図

## II 平成9年度 組織・運営

平成9年4月現在

### 〔組織〕

#### 1 機構



#### 2 職員

職名(担当)	氏名	職名(担当)	氏名	職名(担当)	氏名
館長	高田 晃	[学芸部]		学芸主事	岩田 正雄
次長兼総務課長 (総務課)	伊藤 金夫	学芸部長	小林 秀臣	"	大澤 洋司
課長補佐兼総務係長	岩田 千恵子	課長補佐兼人文係長 (兼)課長補佐(民俗)	小坂 正夫	"	浅井 正美
主任	古田 光	課長補佐(歴史)	曾我 孝司	学芸嘱託員	熊崎 康文
主事	高橋 昭人	学芸主事(考古)	渡邊 育也	課長補佐兼教育普及係長 (兼)課長補佐	田口 方一
業務嘱託員	加藤 祐子	主事(美術工芸)	坂口 浩之	"	今津 利治
"	永田 昌	課長補佐兼自然係長	岩佐 伸一	"	小倉 裕久
"	古野村 美保子	学芸主事(植物)	鹿野 勘次	"	山原 克三
"	須田 寿子	" (地学)	井上 好章		
"	池村 るみ	主事(動物)	安藤 善一		
"	市原 麻利子	学芸嘱託員(地学)	安井 謙介		
"	高橋 紀枝	課長補佐兼マイミュージアム係長 (併)主査	岩田 幸作		
"	佐伯 麻里		川崎 邦光		

### 〔事業計画〕

#### 1 展示活動

展示名	期間	主な展示内容
常設展		自然展示室は「郷土の自然とおいたち」「郷土のさまざまな自然」をテーマに岐阜県の大地ができたようす、郷土の自然とあらまし、ふるさとの動物・植物・岩石等を展示。人文展示室は「郷土のあゆみ」と「郷土の民俗と美術工芸」をテーマに郷土の原始時代から現在に至る歴史的な遺産や伝統的美術工芸品等を紹介。
春季特別展 「花と鳥のイリュージョン」 —江戸の学問と芸術—	4/25 ～6/1	日本では古来より多くの美術品に花や鳥がデザインされ、特に江戸後期になると自然をありのままにとらえたり、科学的に見たりする動きがあらわれた。この時期の岐阜県にゆかりのある美術品のうち、「花と自然」をテーマに展示紹介する。
資料紹介展 「大垣内貝類コレクション」	7/5～ 8/31	岐阜県を中心に貝類の研究を続けてきた大垣内宏氏から寄贈を受けた膨大な貝類標本のコレクションの中から、「海の貝」「陸の貝」「貴重な貝」という角度から展示紹介する。
秋季特別展 「薬草のふるさと伊吹」	9/13 ～11/9	岐阜・滋賀の両県にまたがる伊吹山は、気象や地質が特徴的であり、昔から薬草の宝庫として人々に知られている。この伊吹山の自然を「薬草」を中心に総合的に紹介。
「世界の民俗資料紹介展」 —くらしの中の木の文化—	11/15～ 12/23	岐阜県が飛騨地域で推進している「世界民俗文化首都」構想に沿って、世界各地から木に関する民俗資料が収集されており、その一部を紹介する。
出土遺物速報展 「土に刻まれた古代・中世」 —コメづくり・モノづくりから—	1/14～ 2/1	岐阜県文化財保護センターが調査・研究した「生産遺跡」にかかわる資料を時代にそって展示し、生産にかかわる当時の一般民衆の暮らしや背景などを紹介する。
特別陳列 「ふるさとの文化財紹介展」 —可茂地区—	2/21 ～3/31	岐阜県下各市町村に所在する国や県指定の文化財をはじめとした優れた文化遺産を、シリーズ企画で紹介する。本年度は可茂地区を対象とする。
マイミュージアムギャラリー		県民の収集、保管してきたコレクションを期間を決めて展示する。

## 2 教育普及事業

事業名	期 日	対 象	定員	内 容
特別展講演会	5/3			花鳥画の流れの中に見る円山派の思想 京都大学 教授 佐々木 永平氏
	5/11			旗本・馬場大助の世界 東京国立博物館 資料第二研究室長 佐々木 利和氏
	9/28			わたしの見た伊吹の貴重な植物 井波植物研究所 所長 井波 一雄氏
	10/26			伊吹山薬草の研究史 岐阜薬科大学 前学長 水野 瑞夫氏
文化講演会	11/9			京都の仏像と奈良の仏像 東海女子大学 教授 清水 善三氏
記念講演会	8/3			かたつむりのはなし 大垣 内宏氏、宮崎 淳氏
博物館講座	5/24	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 1
	5/25			美術品と自然
	6/1			古寺を訪ねて 1 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	6/28	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 2
	7/20			古寺を訪ねて 2 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	7/21	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 3
	8/2	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 4
	8/23	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 5
	9/21			古寺を訪ねて 3 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	9/27	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 6
	10/19			きのこの講話 朝日村秋神温泉 小林繁氏 岐阜市立女子短期大学 教授 森 基子氏
	10/25	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座 7
	11/2			岐阜県の明治維新
	11/24			岐阜県の能面
	11/30			古寺を訪ねて 4 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
1/18			最近の県内発掘事情にみる地域のすがた 県文化財保護センター職員	
1/24	高校生以上	8	インターネット・ホームページ制作講座 1	
1/25			古寺を訪ねて 5 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏	
2/1	高校生以上	8	美濃・飛騨の古代遺跡	
2/28	高校生以上	8	インターネット・ホームページ制作講座 2	
3/8			可茂地区の文化財紹介	
3/21	高校生以上	8	インターネット・ホームページ制作講座 3	
3/22			古寺を訪ねて 6 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏	
自然観察会	4/26		40	ヒトクチャケにいる虫を見よう
	7/6		20	身近な薬草ウォッチング in 春日村
	8/13	小学生以上	40	郷土の化石ウォッチング
	9/14		50	秋の伊吹山植物ウォッチング 琵琶湖博物館 村瀬 忠義氏
	10/12		50	モリモリ薬草体験 in 春日村 岐阜薬科大学 助教授 田中 俊弘氏
	1/11		40	百年公園のバードウォッチング 塚原 博良氏
恐竜セミナー	8/20 ～21	小学3年以上	200	恐竜セミナーGIFU'97 in KAMITAKARA ～学ぼう古生代から中生代の化石～ 東京大学名誉教授 濱田 隆一氏 恐竜イラストレーター ヒサクニヒコ氏 福井県立博物館 東洋 一氏
陶芸教室	7/13	一般	30	茶 碗 陶芸家 岡田 孝司・春海氏
たのしい博物館	4/12	幼児以上		体験！マルチメディア
	5/10	幼児以上		体験！マルチメディア
	7/12	幼児以上		体験！マルチメディア
	7/27		40	竹細工（竹でおもちゃをつくろう） 石原 文雄氏
	8/1			クイズで探検！博物館
	8/8			クイズで探検！博物館
	8/10	小学生以上		体験！インターネット
	8/29			クイズで探検！博物館
	9/13	小学生以上		体験！インターネット
	9/23		40	伊吹の薬草染め体験 小寺美代子氏
	10/5		40	徳山のくらしを体験しよう 宮川 澄雄氏
	10/11	幼児以上		体験！マルチメディア
	11/8	小学生以上		体験！インターネット
	11/22		40	紙で恐竜をつくろう 造形作家 水野 政雄氏
	11/23		30	伊吹の薬草料理体験 in 春日村 ふれあい倶楽部
	12/13	幼児以上		体験！マルチメディア
12/14		40	連風つくり挑戦しよう	
12/21		40	わら細工（正月の飾りをつくろう） 石原 文雄氏	
1/10	小学生以上		体験！インターネット 大野 仁久氏	
2/14	幼児以上		体験！マルチメディア	
3/14	小学生以上		体験！インターネット	
3/28			クイズで探検！博物館	
特別行事	4/29		100	グリーンアドベンチャー大会
	10/19	親 子	120	きのこ王国岐阜体験セミナー 共催：県林政部
	11/3			百年公園・博物館を写生しよう 共催：百年公園事務所
	1/7		200	七草がゆを食べよう

## 3 マイミュージアムギャラリー展示(マイミュージアムギャラリーの展示については出展者の責任でなされています。)

展示期間	出 展 者	出 展 内 容
4/5～5/5	伊藤 彰	古代オリエント宝玉展
5/10～6/10	児玉輝彦・上村末子・真田隆明	自然の造形美（菊花石・化石・木彫刻）
6/29～8/3	長谷虎治・松本好夫・安江一栄・平田重彦	四人展（はく製・屏風・書画）
8/10～9/21	加納八郎	鉄腕アトムコレクション
9/28～11/3	梶山周平・後藤 勇	古鏡と台湾の民具展
11/11～12/21	小野八幡神社 前田 博	城下町八幡町の起源と八幡神社の宝物
1/6～2/11	小川義明	和風展（武者絵・浮世絵の手作り版）
2/17～3/22	ARI写真同好会 亀井清人・三浦孝之	自然の情景写真展

### III 平成8年度のあゆみ

#### 〔職員〕

##### 1 職員名簿

職名(担当)	氏名	職名(担当)	氏名	職名(担当)	氏名
館長	清水 廣美	〔学芸部〕		(併)課長補佐	田中 義夫
次長兼総務課長 〔総務課〕	伊藤 金夫	学芸部長	小林 秀臣	学芸主事	岩田 正雄
課長補佐兼総務係長	岩田 千恵子	課長補佐兼人文係長 (兼)課長補佐(民俗)	富田 幸八	"	大澤 洋司
主 任	小寺 弘春	課長補佐(歴史)	曾我 孝司	"	熊崎 康文
"	古田 光	学芸主事(考古)	渡邊 育也	学芸嘱託員(～1月)	田口 浩吉
主 事	酒井 美奈	主 事(美術工芸)	大塚 章	課長補佐兼教育普及係長	今津 利治
"	永田 昌	課長補佐兼自然係長	岩佐 伸一	(兼)学芸主事	三尾 寛次
業務嘱託員	古野村 美保子	課長補佐(地学)	鹿野 勘次	学芸嘱託員	小原 克朗
"	亀山 綾子	学芸主事(植物)	川合 康司	"	山田 喜三
"	田代 千津子	主 事(動物)	井上 好章		
"	竹内 寿子	学芸嘱託員(地学)	梅澤 貴司		
"	池村 るみ	課長補佐兼マイ・ミュージアム係長	小串 泉		
"	市原 麻利子	課 長 補 佐	岩田 幸作		

##### 2 異動

転出 次長兼総務課長	竹中 敬明	転入 次長兼総務課長	伊藤 金夫
学芸部長	石井 新太郎	学芸部長	小林 秀臣
課長補佐兼自然係長	高橋 涼	課長補佐兼教育普及係長	今津 利治
課長補佐兼教育普及係長	安藤 志郎	課長補佐	岩田 幸作
課長補佐	杉山 隆則	学芸主事	大澤 洋司
"	平井 正春	"	熊崎 康文
主 事	千田 友清	主 任	古田 光
"	大滝 陽子	昇任 課長補佐兼自然係長	鹿野 勘次
退職 学芸嘱託員	梅溪 昌美	新任 主 事	説田 健一
"	今尾 英夫	"	永田 昌
"	説田 健一	学芸嘱託員	田口 浩吉
"(1月15日)	田口 浩吉	"	山田 喜三
		"	梅澤 貴司

##### 3 歴代館長名簿

	在職期間(年度)	氏名
1	昭和51年	小幡 忠良
2	昭和52年～昭和54年	松尾 克美
3	昭和55年～昭和56年	大橋 桃之輔
4	昭和57年～昭和58年	吉本 幹彦
5	昭和59年	関谷 美智男

	在職期間(年度)	氏名
6	昭和60年～昭和61年	廣田 照夫
7	昭和62年～昭和63年	森崎 利光
8	平成元年～平成2年	伊藤 秀幸
9	平成3年～平成4年	篠田 幸男
10	平成5年～平成6年	横山 勢津男

〔日誌抄〕

平成8年度

4. 1 「岐阜県博物館報」第19号発行  
 1 人事異動に伴う辞令交付  
 6 マイミュージアムギャラリー「男の粋・女の贅 紋付と丸帯」開場（～5月12日）  
 13 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 19 博物館員ユタ州訪問（開館20周年記念展恐竜のふるさとユタ資料借用、交流の推進）  
 20 資料紹介展「海拔0mから3000mへの旅」（～6月2日）  
 27 たのしい博物館「よろい・かぶとを着てみよう」  
 28 岐阜県博物館友の会総会  
 29 自然観察会「観察のこみちの樹木を調べよう」  
 5. 5 博物館講座「海拔0mから3000mの植物」  
 11 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅰ」  
 13 岐阜県博物館協会通常総会  
 18 マイミュージアムギャラリー「三人展 花器・あかり・柱時計」開場（～6月23日）  
 19 博物館講座「海拔0mから3000mの動物・昆虫」  
 25 入館者170万人を突破  
 25 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 26 特別行事「百年公園・博物館を写生しよう」  
 6. 8 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅱ」  
 11 (財)県文化財保護センター速報展「よみがえる縄文の世界」（～6月27日）  
 16 記念講演会「よみがえる縄文の世界（田徳山村）」  
 20 岐阜県恐竜化石学術調査団結団式  
 20～21 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部理事会・総会（於：岐阜市）  
 22 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 23 たのしい博物館「徳山のくらしを体験しよう」  
 30 博物館講座「仏像～その形が表すもの～Ⅰ」  
 30 マイミュージアムギャラリー「関市の自慢 陣笠・掛軸・甌穴写真・書」開場（～8月4日）  
 7. 13 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 7. 15 開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」開場式（～9月8日）  
 20 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅲ」  
 23 岐阜県児童生徒科学作品展移動展（～7月28日）  
 30 自然観察会「セミの羽化を観察しよう」  
 8. 6 自然観察会「夏の植物ウォッチングⅠ」  
 10 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅳ」  
 11 記念展講演会「北アメリカの恐竜」  
 11 マイミュージアムギャラリー「日本の鎧展」開場（～9月23日）  
 13 自然観察会「夏の植物ウォッチングⅡ」  
 18 アメリカ合衆国ユタ州ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と友好提携調印式挙行  
 18 記念展講演会「アメリカ恐竜最前線」  
 20～22 恐竜セミナーGIFU'96 in KAMITAKARA（於：上宝村）  
 9. 14 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅴ」  
 22 陶芸教室「茶碗」  
 28 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 29 博物館講座「仏像～その形が表すもの～Ⅱ」  
 10. 1 マイミュージアムギャラリー「火縄銃展」開場（～11月4日）  
 3～4 東海三県博物館協会交流研修会（於：瀬戸市）  
 7 飛騨美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」開場式（～11月17日）  
 12 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 13 自然観察会「化石ウォッチング」  
 17 マイミュージアムギャラリー企画運営委員会  
 20 特別行事「きのこ王国岐阜体験セミナー」  
 20 博物館講座「きのこ講話」  
 26 博物館講座「ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅵ」  
 27 記念展講演会「明治維新と飛騨」  
 27 博物館長ユタ州訪問（開館20周年記念展恐竜のふるさとユタ資料返却、友好提携調印返礼）  
 11. 6～7 全国博物館大会（於：横浜市）  
 11. 9 たのしい博物館「紙で恐竜を作ろう」  
 10 博物館講座「岐阜県の明治維新」  
 12 マイミュージアムギャラリー「左久作と大工道具展」開場（～12月23日）  
 16 文化講演会「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」、「岐阜県と私」  
 23 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 24 博物館講座「仏像～その形が表すもの～Ⅲ」  
 30 博物館同人・サポーター研修（於：豊橋市自然史博物館）  
 12. 14 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 15 たのしい博物館「風をつくってあげよう」  
 22 たのしい博物館「わら細工（正月の飾りをつくろう）」  
 1. 5 マイミュージアムギャラリー「紙の美術品 切手・引札」開場（～2月9日）  
 7 特別行事「七草がゆを食べよう」  
 11 自然観察会「百年公園のバードウォッチング」  
 25 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 26 博物館講座「仏像～その形が表すもの～Ⅳ」  
 2. 6 特別陳列「ふるさとの文化財紹介展―美濃地区―」（～3月23日）  
 8 博物館同人・サポーター研修  
 8 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 9 博物館講座「奈良・平安時代の美濃と飛騨」  
 15 博物館同人・サポーター研修  
 18 マイミュージアムギャラリー「掛軸展」開場（～3月23日）  
 22 たのしい博物館「クイズで体験！博物館」  
 23 博物館講座「近世京都画壇と美濃」  
 3. 4 福井県・岐阜県恐竜化石調査交流会（於：関市）  
 8 自然観察会「春のめがめ植物ウォッチング」  
 9 博物館講座「美濃地区の文化財紹介」  
 22 たのしい博物館「体験！マルチメディア」  
 23 博物館講座「仏像～その形が表すもの～Ⅴ」

〔博物館協議会〕

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、また意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条及び第3条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

氏名	勤務先	現職名
小瀬 洋 喜	大垣女子短期大学	大垣女子短期大学学長
片桐 武 司	学校法人岐阜済美学園	岐阜県私立中学高等学校協会会長
熊田 光 久	岐阜県博物館友の会	岐阜県博物館友の会会長
後藤 文 宏	穂積町立穂積中学校	岐阜県中学校長会会長
○坂倉 又 吉	千代菊(株)	千代菊(株)取締役会長
篠田 薫	かぐや第一幼稚園	学校法人 篠田学園 かぐや第一幼稚園園長
鳴崎 藤 雄	岐阜市方県公民館	岐阜県公民館連合会会長
◎土屋 齊	(株)大垣共立銀行	(株)大垣共立銀行取締役名誉会長
野村 令 子	美山町立西武芸小学校	岐阜県小学校長会
溝脇 昭 人	名古屋テレビ放送(株)岐阜支局	名古屋テレビ放送(株)報道部
若山 恭 道	岐阜県立大垣北高等学校	岐阜県高等学校長協会副会長
和田 吉 弘	中部女子短期大学	中部女子短期大学副学長

◎会長 ○会長代理 (平成9年3月31日現在 五十音別)

ただし、任期は平成8年6月21日から平成10年6月20日まで

〈開催状況〉

月 日 平成8年7月15日  
 場 所 岐阜県博物館 講堂  
 議 事 ・魅力ある博物館にする  
 ために  
 ・その他

## 〔実施事業の概要〕

平成8年度は、岐阜県博物館の開館20周年に当たり、「恐竜のふるさとユタ」展を開館20周年記念展として実施した。平成3年からユタ州博物館施設等の実態調査を開始し、学術調査、研究交流を海外に広め、その成果として開館20周年という節目のときに、国際的な記念展を開催できたことは、意義深いものがある。この記念展講演会において、「北アメリカの恐竜」と題して国立科学博物館古生物第3研究室長富田幸光氏が、「アメリカ恐竜最前線」と題してユタ州ブリガムヤング大学附属地球科学博物館ケネス・リー・スタッドマン氏が講演した。

この記念展開催中に、ユタ州ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と友好提携の調印が締結され、今後の学術交流が確認されたことも、博物館の国際的な方向を示すものとして、特筆すべきことである。

また本年は、飛騨と美濃が合併し、「新しい岐阜県」が誕生して、120年目の記念すべき年であり、「岐阜県の明治維新」展を、その記念展として開催した。この記念展において、飛騨と美濃がどのように合併したのか、明治維新がどのように展開されたのかを検証した。この記念展講演会では、「明治維新と飛騨」と題して岐阜大学松田之利教授が講演した。

なお、飛騨美濃合併120周年記念事業の一環として、文化講演会を県民文化ホール未来会館にて実施し、作家の阿川弘之氏が、演題「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」として講演し、山田智彦氏が「岐阜県と私」と題して講演した。

マイ・ミュージアム関連では、世界初のハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」は美濃路編に続き、本年度中山道編を制作、新たに46市町村、233事象について収録し、ハイビジョンホールの大画面及びマルチメディ

アスタジオでの個人検索に供される。なお、この風土記制作は、平成9年度に引き継がれ、岐阜県全域99市町村、合計530事象が検索されることになる。

### 1 調査研究資料

人文関係では、「花と鳥のイリュージョン」というテーマで、特に江戸時代の写生と花鳥画を中心に調査研究し、自然関係では、「息吹の自然」というテーマのもとに息吹の植物、とりわけ薬草について調査研究を行った。

マイ・ミュージアム関係では、インターネットによる情報発信等に備えて、映像を含んだ情報の規格化、情報の蓄積について調査研究を進めた。

### 2 展示活動

下の表に示すように、記念展2回、資料紹介展1回、特別陳列1回、マイミュージアム・ギャラリー展8回を行ったほか、(財)岐阜県文化財保護センター速報展が開催された。

### 3 資料収集活動

人文関係では、美濃・飛騨両地域の近世、近代史を中心に資料の収集を行い、自然関係では伊吹山一帯の植物の資料の収集に努めた。

### 4 教育普及活動

「たのしい博物館」(17回)等年間52回(54日)の講座、観察会等を開催した。「体験!マルチメディア」の講座で、対象は幼児から大人まで多くの参加者を得て、ハイビジョン映像を通し、マルチメディアの世界を体験してもらった。また、マルチメディア工房では、高校生グループがハイテク技術を駆使して、熱心に番組制作に挑戦した。3年目を迎えた特別行事「きのこ王国岐阜体験セミナー」、また「百年公園、博物館を写生しよう」は多くの参加者があり、好評を博した。

なお、本年度入館者は、69,850人であった。

展 示 名	期 間	展 示 内 容	入館者数
常 設 展	年 間	人文展示室Ⅱの円空のコーナーを中心に、随時、仏教、刀剣、陶器等のコーナーの展示替えをした。	—
開館20周年記念展 「恐竜のふるさとユタ」	7/16～9/8	岐阜県博物館開館20周年を記念して、岐阜県と友好関係にあるアメリカ合衆国ユタ州の自然を広く紹介することをねらいとした。 ユタ州は恐竜化石を産出することで有名なことから、恐竜化石をメインとして展示し、これを軸にユタ州の自然を紹介した。	19,408
飛騨美濃合併120周年記念展 「岐阜県の明治維新」	10/8～11/17	飛騨と美濃が合併した岐阜県の明治維新の時代を検証し、この時代に活躍した先覚者の業績と人となりを紹介した。この展示によって岐阜県の明治維新の時代を再認識し、郷土に対する愛着を高める機会とした。 この記念展は、飛騨美濃合併120周年記念事業の一環として開催された。	13,931
資料紹介展 「海拔0mから3000mへの旅」	4/20～6/2	岐阜県は、河口部に海拔0m地帯があり、一方で、標高の高い山々が連なり、実にその標高差は3000mを越えるほどである。地質や気候、そこに生活する植物や動物の豊かさやすばらしさを標高差という側面から見ていけるように展示し、本県の自然の特徴的な事物・事象を紹介した。	12,954
特別陳列 「ふるさとの文化財紹介展」 ～美濃地区～	2/6～3/23	県内の文化財をシリーズで紹介する企画展の3年目であり、美濃地区14市町村の特色ある文化財を調査研究し、その成果を120点の資料で紹介した。	5,753
マイミュージアムギャラリー	H 8.4/6～ H 9.3/23	男の粋・女の贅(4/6～5/12)、三人展(5/18～6/23)、関市の自慢(6/30～8/4)、日本の鏝展(8/11～9/23)、火縄銃展(10/1～11/4)、左久作と大工道具展(11/12～12/23)、紙の美術品(H9.1/5～2/9)掛軸展(2/18～3/23)	—

## 〔展示の入れ替え〕

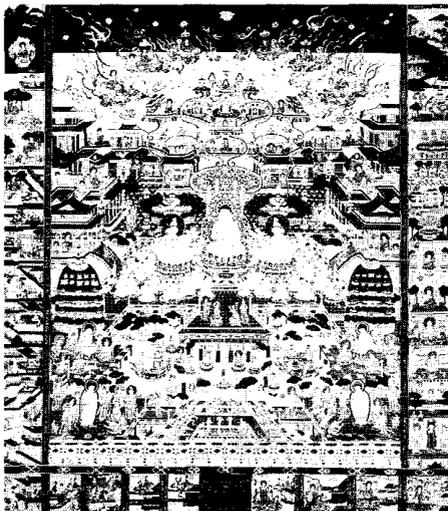
### 人文展示室 2

本年度は、飛騨美濃合併120周年記念展を当展示室で開催したのを機会に、展示ケースの移動等、室内のイメージ替えおよび随時作品の展示替えを行った。

#### (1) 仏教美術部門

本部門では、当館及び県内の寺院などに収蔵されている、歴史的・美術的に価値の高い仏像・仏画・仏教に関わる作品（それぞれレプリカを含む）を展示した。

当麻曼陀羅図	江戸時代	当館蔵
十六善神像	室町時代	当館蔵
漆骨蔵器	室町時代	莊福寺蔵 ほか



当麻曼陀羅図 当館蔵

#### (2) 陶芸部門

本部門は、多治見工業高等学校所蔵の織部を中心に、岐阜市の金華山焼、隣県の犬山焼などを展示した。

織部草花文平茶碗	桃山時代	当館蔵
美濃伊賀水指	桃山時代	当館蔵
織部梅文四方鉢	桃山時代	多治見工業高校蔵



織部草花文平茶碗 当館蔵

#### (3) 書画部門

本部門では、地元には縁の深い画家、書家、文人の作品をはじめ、日本美術史に名を残す人々の作品を江戸時代のものを中心にテーマを設定して展示した。

##### 〈俳人の書〉

谷木因	書状「瓢にて」	江戸時代
田中五竹坊	掛幅「梅が香や」	江戸時代 ほか

##### 〈梁川星巖とその周辺〉

梁川星巖	「文殊普賢画賛」	江戸時代
頼山陽	「大塔宮七律」	江戸時代 ほか

#### (4) 刀剣部門

本部門では、美濃の刀剣を中心に展示した。

年間を通じて、太刀や打刀、短刀、槍など各種の刀剣類、あわせて太刀拵、槍拵、長刀拵等も展示した。また、広く刀剣に関する知識・関心を持てるように刀の製作工程も展示した。

#### (5) 金工部門

当館には、鏝や小柄をはじめとする刀装具類や古鏡が多く寄託されている。それらのうち、美術的・歴史的に価値のある作品を中心に展示した。

鶴丸文鉄鏝	無銘	江戸時代
柳下小野道風に蛙金象嵌鏝	無銘	江戸時代
老松図毛彫銅鏝	銘 乘意	江戸時代 ほか

#### (6) 円空部門・小企画部門

岐阜県が誇る芸術家・円空の業績を展示した本部門では、彼の遺した仏像（レプリカ）をはじめ、書画および彼を取り扱った歴史資料を展示した。

また、本年度後半においては「小企画部門」とし、「近世崎人伝と美濃の人々」と銘打って、江戸時代後期のベストセラー『近世崎人伝』に現れた美濃の人々を紹介し、あわせて彼らの資料を展示した。

伴蒿溪	「近世崎人伝」（正・続）	江戸時代
円空	「富士山図」	江戸時代
永田佐吉	「宝珠図自画賛」	江戸時代 ほか



伴蒿溪 『近世崎人伝』

## 開館20周年記念展

### 1 展示会名称

「恐竜のふるさとユタ」

### 2 開催期間

平成8年7月16日（火）～平成8年9月8日（日）  
48日間

### 3 趣旨

岐阜県博物館開館20周年を記念して、岐阜県と友好関係にあるアメリカ合衆国ユタ州の自然を広く県民に紹介することをねらいとした。

標高1300mの高地にある州都ソルトレイクシティを中心に発達したユタ州はその北西部に大塩湖グレイトソルトレイクを擁し、西部は砂漠地帯、南東部は山岳地帯となっている。このような大自然をバックに古生代から新生代までの様々な化石が産出する。中でも、中生代の恐竜化石はアメリカの三大産地の一つとして世界的に有名である。

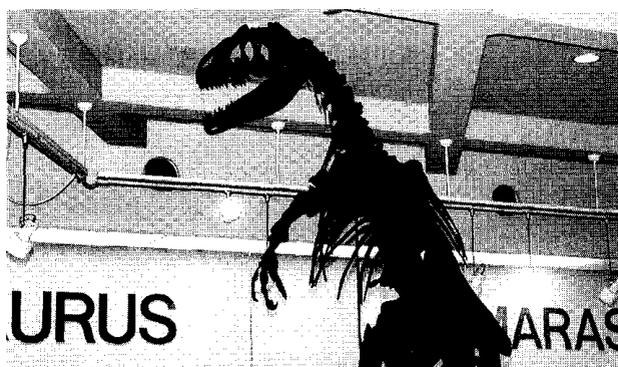
今回の記念展では、この恐竜をメインに古生代から新生代の化石を展示した。そして、化石を軸にしたユタ州の自然史を中心に展開する中で、現在のユタ州の自然の様子も紹介していきたいと考えて行った。

### 4 展示内容

展示内容を7つのコーナーに分け、恐竜の実物化石など40点の脊椎動物化石を中心に、無脊椎動物化石、ユタ州産の植物標本、ユタ州の昆虫標本、民芸品など合計261点を展示した。

#### (1) 現在のユタ

ソルトレイクシティ・プローボ・ブライスなどの都市のパネル、デルタ等の地方の風景パネル等の風景写真や2002年にユタ州で開催されることが決定した冬季オリンピックに関わるグッズ、原住民の民芸品などで現在のユタ州の様子を紹介した。



(展示風景Ⅰ)

#### (2) ユタの地形と地質

変化に富んだユタ州の地形と地質をパネルと岩石・鉱物標本で紹介した。

#### (3) ユタの地史

古生代から新生代までのユタ州産の化石や、ユタ州の地形の変遷図、生物相の変遷を示すパネルでユタ州の地史を紹介した。

#### (4) ユタの恐竜

○ジュラ紀の恐竜

ユタ州のモリソン層から産出したアバトサウルス、アロサウルスなどの恐竜の実物標本を中心にユタの恐竜をダイナミックに紹介した。

○白亜紀の恐竜

ユタ州の白亜紀の地層から産出するハドロサウルスの大腿骨や足跡の化石を中心にトリケラトプス、デイノニクス全身骨格などでユタ州の白亜紀の恐竜を紹介した。

#### (5) 恐竜とともに生きた生物

ワニの頭骨、カメの化石などで、恐竜が生きていた頃に生活していたいろいろな生き物を紹介した。

#### (6) ユタの植物

現在のユタ州に生育する植物を日本の植物と対比しながら紹介した。

#### (7) ユタの昆虫

現在のユタ州に生息する昆虫を紹介した。



(展示風景Ⅱ)

#### (関連事業)

8月11日 「北アメリカの恐竜」

国立科学博物館古生物第三研究室長 富田幸光博士

8月18日 「アメリカ恐竜最前線」

ブリガムヤング大学附属地球科学博物館

学芸員 ケネス・リー・スタッドマン 氏

8月20日～22日 「恐竜セミナー GIFU」

放送大学教授 濱田隆士 氏

ブリガムヤング大学附属地球科学博物館

学芸員 ケネス・リー・スタッドマン 氏

## 2 飛騨美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」

10月8日(火)～11月17日(日)

古代以来、飛騨と美濃は自然的・地理的条件などの違いにより、それぞれ独自の社会や文化を形成してきた。明治維新を迎え、明治4年の廃藩置県により、飛騨地域は「筑摩県の一部」とされ、美濃地域は「岐阜県」となった。さらに、明治9年には筑摩県の一部であった飛騨が岐阜県に編入されて、現在の「岐阜県」が新しく誕生した。平成8年は、この「新しい岐阜県」が誕生して120年目の記念すべき年にあたる。

本記念展は、飛騨美濃合併120周年記念事業の一環として、飛騨が美濃とどのように合併したのか、明治維新が岐阜県においてどのように展開されたのかを検証した。また、この時代に活躍した先覚者の業績と人となりも紹介した。

この展示によって、岐阜県の明治維新の時代を再認識し、郷土に対する愛着をさらに強めてもらうことを目指した。



### 〈展示内容の概要〉

岐阜県の明治維新の時代をわかりやすく解説するために、「政治的な動き」と「人々の暮らし」という2本柱を立てた。また、柱ごとに3つのコーナーを設けて展示した。展示資料は、県下初公開の資料を含め、258種類312点を数えた。

## I 明治維新と飛騨美濃合併

### (1) 黒船来航と幕末維新

アメリカ合衆国のペリーをはじめとする欧米列強の来航や幕末・維新期の様相を紹介した。黒船来航によって、飛騨美濃がどのような影響を受けたのかを考察したが、特に、『ペリー来航異国落葉籠』によって、ペリー来航時の大垣藩の動向が明らかにされた。

### (2) 維新に活躍した郷土の先覚者

幕末から維新时期にかけて、新しい国づくりに燃えた郷土の先覚者8名と明治期の教育や殖産興業に情熱を燃やした郷土の先覚者4名を取りあげ、その活躍と人々を紹介した。

### (3) 飛騨美濃合併

飛騨と美濃が合併し、新しい岐阜県が誕生する様子や明治初・中期の岐阜県の動向を紹介した。中でも、『筑摩県絵図』など筑摩県時代の資料を数多く展示することができ、反響を呼ぶことができた。

## II 明治維新と人々の暮らし

### (1) 文明開化 事始め

衣・食・住における西洋文明の導入や新しい教育の普及の様子を紹介した。博物館明治村の協力を得て、江戸時代から明治にかけての暮らしの変化を具体的な資料で示すことができたことは、一つの成果であった。

### (2) 自由民権の渦

板垣退助の遭難を中心として、岐阜県における自由民権運動の盛衰を紹介した。板垣の岐阜遭難関係の資料は、『遭難之図(錦絵)』『血染めのシャツ』『被害短刀』『遭害一件(文書)』『遭難録』など貴重な資料を数多く展示することができ、好評であった。



血染めのシャツ

被害短刀

### (3) 飛騨の工女

製糸業の発達と信州へ糸引きにでた飛騨の工女さんの様子を紹介した。飛騨の工女さんについては、貴重な資料を確認し調査することはできた。しかし、プライバシーの問題もあって展示することができないものもかなりあり、今後の課題としたい。

### 〈関連事業〉

#### ○記念展講演会

10月27日(日)「明治維新と飛騨」

岐阜大学教授 松田 之利氏

#### ○文化講演会

11月16日(土)

「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」

作家 阿川 弘之氏

「岐阜県と私」～文学と経済、二足わらじの体験から～

作家 山田 智彦氏

#### ○博物館講座

11月10日(日)「岐阜県の明治維新」当館学芸員

○図録「岐阜県の明治維新」(A4判 62ページ)

## 〔資料紹介展〕

### 海拔0 mから3000 mへの旅

平成8年4月20日(土)～6月2日(日)

岐阜県の南西部には、木曾川・長良川・揖斐川の河口部である海拔0 m地帯があり、一方で東部には、北アルプス・御嶽山・恵那山、西部には白山・伊吹山などの標高の高い山々が連なっている。実にその標高差は3000 mを越えるほどである。

変化に富んだ地形、そこに生きる植物や動物の種は変化に富んでいる。

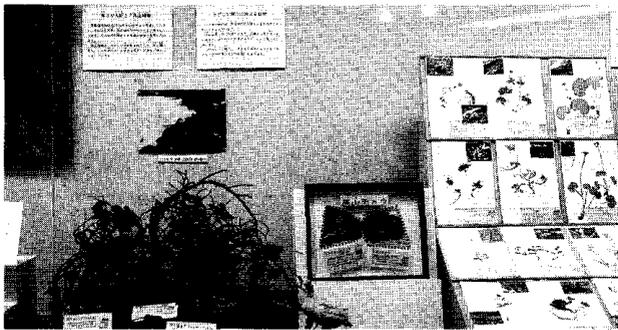
植物でいえば、暖帯の常緑広葉樹林、亜寒帯の亜高山針葉樹林、寒帯の高山植生がそろっている。また南からの渡来植物、日本海側と太平洋側の植物等、さまざまな分布の接点となっており、種の多様性に驚かされる。

したがって、これらの変化に富んだ岐阜県の自然の事象・事象を標高の違いといった側面で見えていくと、そこに生活する植物や動物の種の豊かさやそのすばらしさが、再び浮き上がって見えてくる。

以上のことから、植物の分布の様子から標高差で分けて大きく次の4つの展示構成にした。

- ① 海拔2500 m以上(高山帯)
- ② 海拔1500 m～2500 m(亜高山帯)
- ③ 海拔500 m～1500 m(山地帯)
- ④ 海拔0 m～500 m(低地丘陵帯)

#### (1) 海拔2500 m以上(高山帯)



ハイマツの展示のようす

厳しい寒さを耐えて生きるコマクサやクロユリなどの植物の様子やハイマツ帯の苛酷な環境に生きぬく動物としてライチョウなどの生態を展示した。

#### (2) 海拔1500 m～2500 m(亜高山帯)



針葉樹林の展示のようす

本県の北東部に発達している針葉樹林の様子とその下に生えるゴゼンタチバナを始めとする小型の植物たち、またその環境に生きぬくニホンカモシカなどの動物も紹介した。

#### (3) 海拔500 m～1500 m(山地帯)



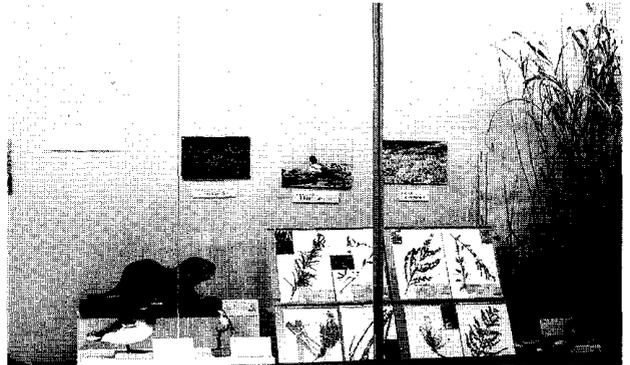
「母なる森」ブナ林の展示のようす

四季の移り変りの美しさがすばらしく、動植物の種類も多い「母なる森」とよばれるブナ林を中心として展示した。

また、ここでは、ブナ林下の日光のうばいあいの仕組み、標高の違いによるスミレ類やネズミ・モグラのすみわけの様子、ヤマハハコの個体変異などにも焦点をあてて展示した。

#### (4) 海拔0 m～500 m(低地丘陵帯)

里山のアカマツ林と雑木林をジオラマで比較展示した。また水郷地帯を中心にして水辺を好む植物の数々やその周囲に生息する鳥や哺乳類をジオラマにより紹介した。



水郷地帯の水辺のジオラマ展示のようす

### 〈関連事業〉

博物館講座

5月5日(祝)

「海拔0 mから3000 mの植物」

5月19日(日)

「海拔0 mから3000 mの動物・昆虫」

両講座とも、始めに自然の生態のスライドをもとにして、海拔0 mから3000 mの生きものの多様性について解説し、その後、実際の展示をもとにして各種の生きものの生態について説明を加えた。

## 〔特別陳列〕

### ふるさとの文化財紹介展—美濃地区—

平成9年2月6日(木)～3月23日(日)

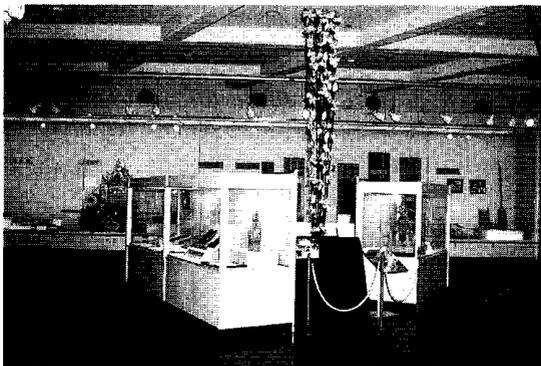
日本列島の真ん中に位置する岐阜県は、各方面からの文化が行き交うところとして、特徴ある郷土の文化が花開いた。こうした誇るべき“ふるさとの文化財”の数々を広く紹介することによって、地域の歴史や文化に対する認識を新たにするとともに、郷土の文化遺産の保存と掘り起こしの一助となるように企画されたのが、この特別陳列である。

初年度の西濃地区(20市町村)、2年目の岐阜地区(17市町村)に続く今年は、関市・美濃市・武儀郡・郡上郡からなる美濃地区14市町村を対象として開催した。各市町村教育委員会や資料所蔵者など関係各位の多大な協力をいただき、長良川の中・上流域の豊かな自然を背景として成立した美濃地区の地域色に富む文化財を一堂に展示することができた。展示資料は、考古・歴史資料から書画・美術工芸品、生産・生活用具や祭りの道具などの民俗資料にいたるまで多彩なものとなった。

#### 〈展示構成〉

過年度と同じく市町村別に構成をした。

- ①関市 ②美濃市 ③洞戸村 ④板取村 ⑤武芸川町  
⑥武儀町 ⑦上之保村 ⑧八幡町 ⑨大和町 ⑩白鳥町  
⑪高鷲村 ⑫美並村 ⑬明宝村 ⑭和良村



#### 〈主な展示内容〉

##### (1) 考古および歴史資料

長良川の本支流沿いに分布する各時代の遺跡から出土した考古資料では、美濃市の観音寺山墳丘墓出土鏡や関市の弥勒寺跡出土品、武儀町の両頭石斧などを展示した。

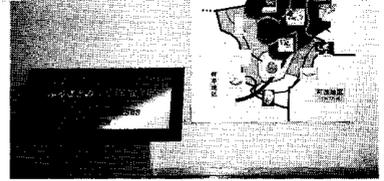
歴史資料としては、城下町をテーマとした八幡町の江戸時代の町絵図や金森内室化粧道具、郡上東氏の本拠地である大和町の東常縁筆和歌短冊をはじめとした東氏関連の資料などを展示した。これら歴史資料は、美術的価値の高いものも多かった。

##### (2) 書画および美術工芸品

武芸川出身の仙崖の水墨画、洞戸村で活躍した隠山筆の扁額、板取村や武芸川町からは美濃市出身の儒学者・

## 特別展示室

### ふるさとの文化財紹介展



教育者である村瀬藤城とうしよに関わる書画・工芸品など、郷土を代表する先人の書画を中心に展示した。また白山信仰で栄えた白鳥町からは如来荒神像などの仏教絵画を、刃物の町・関市からは春日神社に伝わる刀剣と能・狂言面などの伝統的な美術工芸品も多く展示した。さらには、美濃地区の各地に多く残されている円空仏および円空関連資料も展示した(関市・洞戸村・武儀町など)。

#### (3) 民俗資料

美濃市の本美濃紙生産用具と商家の軒を飾った卯建を、明宝村からは国の重要有形民俗文化財に指定された膨大な資料群の中から山村の生産用具としての木地屋関係の資料と、人生儀礼用具のうちから婚礼の祝儀である作り物、また高鷲村からは手作りスキーなどの冬の生活用具を展示した。

また各地に残る祭礼などに関わって、上之保村の宮脇神楽の用具、美並村の江戸時代に郡内各地を巡回したお鍛様や神社に奉納された鍔口や柄鏡類、和良村の人形からくりや古態を伝える振り板獅子頭なども展示した。

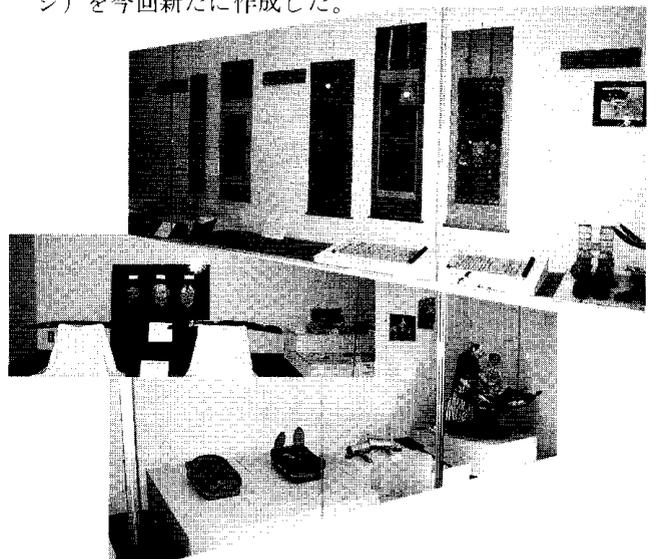
#### 〈展示資料数〉

46件(資料総点数125点)

そのうち、

国指定文化財 2件 県指定文化財 5件  
市町村指定文化財 14件

本展の出品資料について、各市町村教育委員会や資料所蔵者から200字程度で原稿をいただき、解説の資料とした。また、写真入りの解説りーフレット(A4判・8ページ)を今回新たに作成した。



## 〔マイ・ミュージアムギャラリー〕

### (1) 運営の概要

県民（在住、在勤、ゆかりの人）が収集・所蔵しているコレクションを募集し、一定期間、公開展示をする。マイミュージアムギャラリー企画運営委員会を通じて承認された展示計画に従って、順次展示を行う。出展者の募集は常時行っている。

### (2) 平成8年度の展示状況

回	展示期間	出展者	出展内容
1	平成8年 4月6日(土) 5月12日(日)	舟守定喜代	男 <small>いさ</small> の粹・女 <small>せ</small> の贅 〈紋付・丸帯〉
2	5月18日(土) 6月23日(日)	高橋 隆雄 石原 文雄 谷 陸海	三人展 〈竹の花器〉 〈鶺鴒花器〉 〈あかり・柱時計〉
3	6月30日(日) 8月4日(日)	細野 正一 亀山 正博 林 文造 安川 義弘	関市の自慢 〈陣笠〉 〈掛軸〉 〈甌穴写真〉 〈書〉
4	8月11日(日) 9月23日(月)	美濃たがね会 代表 渡辺健一	日本の鐺 <small>つば</small> 展
5	10月1日(火) 11月4日(月)	小関 英一 小関 知明	火縄銃展
6	11月12日(火) 12月23日(月)	吉村 正義	左久作と 大工道具展
7	平成9年 1月5日(日) 2月9日(日)	矢野 愛彦 <small>よしひこ</small> 五十嵐昭元 <small>あきもと</small> 和田 董 <small>たかし</small>	紙の美術品 〈世界の切手〉 〈世界のF F C〉 〈引札・教科書〉
8	2月18日(火) 3月23日(日)	藤田 伸 杉山 恒良 金森 重三 吉田 義男 森本 茂生	掛軸展

### (3) 展示記録「マイ・コレクション」の発行

展示リーフレット「マイ・コレクション」を各回の展示ごとに発行した。平成8年度は7年度からの通番で、

第7号から第14号まで発行した。

#### (4) 出展者による解説・実演・講演等の開催

来館者に対して、出展者による展示解説、実演、講演を以下のように開催した。

##### ・第2回「三人展」石原文雄氏

実演 竹細工による鶺鴒花器づくり

期日 平成8年6月2日、6月23日の2回

場所 マイミュージアムギャラリー内

石原氏は、来館者と歓談されながら製作された。その鮮やかで手際の良い製作風景に、訪れた多数の来館者から感嘆の声がもれていた。見学中の子どもに対しても、その場で竹トンボや風車を2、3分で作り、手渡された。



鶺鴒花器づくりの石原文雄氏

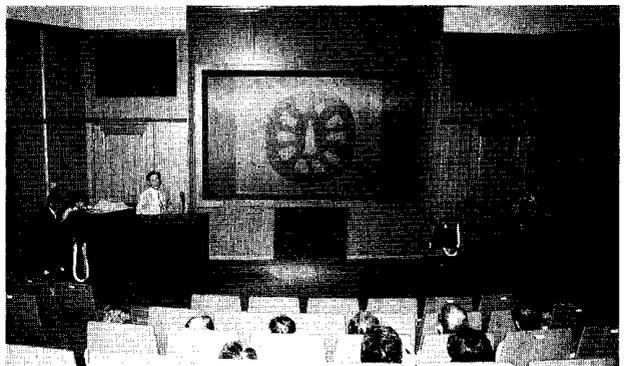
##### ・第4回「日本の鐺展」美濃たがね会・渡辺健一氏

講演 「日本の鐺」

期日 平成8年8月16日

場所 マイ・ミュージアム3階 ハイビジョンホール

刀装具研究家でもある渡辺氏は、日本の鐺の歴史や意匠の変化、鐺の見どころなどについて、鐺に初めて接する聴講者にもわかりやすく講演された。ハイビジョン書画カメラで美しい鐺の写真を写し出し、多くの聴講者は、その造形美に注目していた。



講演中の渡辺健一氏

##### ・第6回「左久作と大工道具展」吉村正義氏

展示解説 刃物師左久作氏による展示作品解説

期日 平成8年11月17日午前、午後1回ずつ

場所 マイミュージアムギャラリー内

出展者の吉村氏の計らいで、展示品の「左久作」作の刃物について、東京都在住の左久作氏本人に解説してい

ただいた。東京都の優秀技能者である左氏は、東大寺正倉院に伝わる大槍砲を復元した物を持参され、集まった多数の来館者にわかりやすく解説された。中には刃物のまち関市らしく刃物業の関係者も多く、左氏の職人気質に聞き入っていた。



展示解説中の左久作氏

・各回において、出展者自身による展示解説を随時実施



展示解説中の矢野愛彦氏（第7回「紙の美術品」）

#### (5) 博物館同人としての登録

出展者は博物館同人とし、19名に同人証を発行した。また、同人として以下の方々に資料の借用、寄贈、寄託を受けた。

- ・谷 陸海氏 「ランプ」3点を平成8年度特別展「岐阜県の明治維新」の資料として借用
- ・細野正一氏 「紙子」2点を寄贈
- ・吉村正義氏 「燈」1対を寄託
- ・和田 董氏 「引札」17点を寄託



寄託された「引札」

#### (6) 平成8年度の出展申し込み

ガラス工芸品、全国各地の天神様土人形、椿に関するコレクション（陶器、こけし、土鈴、絵画、木工芸品など）、鉱物標本、江戸・明治からのそろばん、岐阜県内の滝の写真など。計8件。

#### (7) マイミュージアムギャラリー企画運営委員会

○期日 10月17日 ○場所 本館会議室

○議題

##### ①これまでの展示の経過と課題について

- ・バラエティに富んだ内容で、老若男女を問わず楽しめる。また、リピーターが増えてきている。
- ・出展者による実演、講演、展示解説が実施できた。
- ・展示準備、撤収はスムーズに対応できている。
- ・効果的な案内や広報がなされ、毎回のように新聞報道があった。

##### ②平成9年度展示計画について

- ・内容や地域のバランスがとれている。
- ・広報、PRを効果的に行うことが大切だ。

○委員の構成

	氏 名	役 職
委員	浅野 勇	岐阜県市長会長
"	糸魚川淳二	名古屋大学名誉教授
"	岩田 仲雄	会社社長
"	加藤 郁子	岐阜県地域婦人会連合会会長
"	鳴崎 藤雄	岐阜県公民館連合会長
"	清水 敏郎	岐阜県町村会長
"	辻 欣一	岐阜県社会教育委員連絡協議会
"	船戸 政一	関市教育長
"	松本 五三	岐阜県博物館協会理事長
"	山下 運平	岐阜県議会文教警察委員長
"	横山勢津男	前岐阜県博物館長
"	吉田 豊	岐阜県芸術文化会議会長

会長は吉田豊氏、副会長は松本五三氏が継続就任。

## 〔文化財保護センター速報展〕

### よみがえる縄文の世界～旧徳山村～

平成8年6月11日(火)～6月27日(木)

岐阜県文化財保護センターによる旧徳山村(現藤橋村)の発掘調査は、今年で10年を経過し、縄文時代の遺物を中心としてすでに数十万点にのぼる遺物を取り上げている。縄文時代のこの地域は、東西の文化が交流する場所として全国的な注目を集めており、そうした旧徳山村の出土遺物を、中間報告として初めてまとまった形で展示したのが、この速報展である。

主催は県文化財保護センターであり、当館は県教育委員会とともに共催という立場でこの展示会に参画した。

#### 〈展示の概要〉

小<sup>しょう</sup>の原<sup>はら</sup>、戸入<sup>とにゅうむらだいら</sup>村平、はいづめの互いに近接する戸入地区の3遺跡を中心に、草創期から晩期まで約7,000年以上に及ぶ旧徳山村の縄文時代を、時期を追って展示した。その際、東海・北陸・西日本あるいは東日本など各地の文化の影響を受けつつ、独自の文化を形成していたことを主に土器の形態によって表わした。また石器については、石材の産地分析により全国的な交易圏のなかにあったことを示し、全体として縄文時代のこの地域が閉ざされた山間地ではなく、広範に他地域と交流した「開かれた先進地域」であったことを表現するよう工夫された。

#### 〈展示資料数〉

土器約80点  
石器400点以上



#### 〈関連事業〉

記念講演会 6月16日(日)

#### 『よみがえる縄文の世界』

- ・「戸入地区の発掘概要」  
前県文化財保護センター職員 武藤貞昭氏
- ・「戸入村平遺跡出土石製遺物の原産地分析」  
京都大学原子炉実験所助手 藁科哲男氏
- ・「戸入地区の縄文遺跡について」  
愛知学院大学教授 大参義一氏

## 〔友好提携調印〕

### BYU附属地球科学博物館との友好提携調印

かねてより親交のあったアメリカ合衆国ユタ州のブリガムヤング大学(BYU)附属地球科学博物館と、平成8年8月18日に友好提携の調印式を行った。

提携文の内容は以下のとおりである。

岐阜県博物館・ブリガムヤング大学附属地球科学博物館  
友好提携書

- 1 岐阜県博物館とブリガムヤング大学附属地球科学博物館は、これまで長期にわたり交流を重ねてきたが、恐竜化石をはじめとする脊椎動物化石研究に関し、一層の人的交流を重ね、学术交流を推進し、相互の研究普及活動を支援しあうとともに、両国において最も尊重する機関であることを、相互に確認する。
- 2 両館は、今後研究をとoshi一層の友好と交流を深め、学術研究の発展とその他の諸事業に関し相互支援を行うものとする。さらに、本友好提携が岐阜県とユタ州の友好に貢献するために努力する。
- 3 研究をはじめとする交流の具体的内容については、今後両機関の代表をもって良心的かつ友好的に協議し決定するものとする。
- 4 本友好提携書は、日本語および英語により2部作成し両館がこれを保有する。なお、双方の代表が署名した日から本友好提携は効力を発するものとする。

この友好提携により、岐阜県博物館の恐竜調査活動をはじめ、諸事業の遂行において、ブリガムヤング大学附属地球科学博物館との共同研究および相互支援が期待される。



(調印式当日の様子)

## 〔調査研究・資料収集活動〕

### —自然部門—

#### 1 調査研究

##### 〈動物分野〉

##### (1) カブトムシの生態調査

6月下旬から8月下旬にかけて、岐阜大学農学部と共同で、カブトムシのオス二型（大型オスと小型オス）の繁殖成功率を明らかにするため、関市小屋名百年公園で調査を実施した。

##### ①調査内容および結果

##### ・マーキング調査

期間中、計23日、午後8時から午前6時にかけて、1時間おきにあらかじめ設定した調査木に集まるカブトムシを捕獲した。その場でこれらの個体の鞘翅にマーキングし、鞘翅と角の長さを測定した後、放した。



鞘翅にマーキングしたカブトムシ（オス）

オス計84個体、メス計143個体をマーキングした。オスの角の長さは平均20.83mm、鞘翅の長さは平均29.32mmであった。一方、メスの鞘翅の長さは平均27.63mmであった。再捕獲率が悪く、各個体の寿命を推測することはできなかった。

##### ・死体の回収

期間中、計25日、午前中に一定のコースを歩き、鳥類に捕食されたカブトムシの死体を回収した。その後、研究室でこれらの鞘翅と角の長さを測定した。

オスについては、計147個体分の頭部、計99個体分の鞘翅、メスについては、計55個体分の鞘翅を回収した。



カブトムシ（メス）の死体

オスの角の長さは平均22.59mm、鞘翅の長さは平均30.84mmであった。メスの鞘翅の長さは平均29.28mmであった。

##### ②まとめ

繁殖成功率は明らかにできなかったが、今年度得られた結果から、以下のことがわかった。

- ・オスはメスより捕食されやすい。
- ・大型の個体は小型の個体より捕食されやすい。

##### 〈植物分野〉

##### (1) 伊吹の調査及び資料収集

継続研究として、昨年に引き続き伊吹一帯地域を中心とした植物相の調査を行った。

特に本年度は、笹又登山道と国見峠に続く北尾根の登山道の2ヶ所に区域を絞って調査した。

又、伊吹は薬草の宝庫といわれるほどであるので、特別展示の準備として、薬草になっているものは、できるだけ標本作製するように努めた。その他の昨年度すでに採集した植物については、採集せず、スライド等の2次資料にとどめた。

##### ①笹又登山道で確認した植物

ミヤマイラクサ(イクラサ科)、ヤマブキシソウ(ケシ科)、マタタビ(マタタビ科)、キンミズヒキ(バラ科)、ヤマブキシヨウマ(バラ科)、クサフジ(マメ科)、ミツバフウロ(フウロソウ科)、チドリノキ(カエデ科)、フッキソウ(ツゲ科)、ハウチワカエデ(カエデ科)、メグスリノキ(カエデ科)、ノダケ(セリ科)



ナベナ(マツムシソウ科)

##### ②北尾根の登山道で確認した植物

ハイイヌガヤ(イヤガヤ科)、チャボガヤ(イチイ科)、イブキトラノオ(タデ科)、サンカヨウ(メギ科)、フタバアオイ(ウマノスズクサ科)、トモエソウ(オトギリソウ科)、ミツバベンケイソウ(ベンケイソウ科)、ヤグルマソウ(ユキノシタ科)、チョウセンキンミズヒキ(バラ科)、ヒメフウロ(フウロソウ科)、シナノキ(シナノキ科)、イブキボウフウ(セリ科)、キバナカワラマツバ(アカネ科)、ハクサンカメバヒキオコシ(シソ科)、シオガマギク(ゴマノハグサ科)



ゴマギ (スイカズラ科)

## (2) 白山調査及び資料収集

継続研究として、大白川一帯と白山スーパー林道の三方岩岳一帯の2ヶ所を中心に調査した。

この地域は貴重な植物が多いことから、伊吹と同様にできるだけスライド等の2次資料にとどめた。

### ① 大白川一帯で確認した植物

ユキザサ (ユリ科)、ツクバネソウ (ユリ科)、ツバメオモト (ユリ科)、ズダヤクシュ (ユキノシタ科)、オオカニコウモリ (キク科)、トチバニンジン (ウコギ科)、エゾユズリハ (トウダイグサ科)

### ② 三方岩岳一帯で確認した植物



キンコウカ (ユリ科)

ネバリノギラン (ユリ科)、イワイチョウ (リンドウ科)、ゼンテイカ (ユリ科)、アケボノシユスラン (ラン科)、ゴゼンタチバナ (ミズキ科)、リュウキンカ (キンポウゲ科)、ナナカマド (バラ科)、オオバクロモジ (クスノキ科)、マルバマンサク (マンサク科)

## <地学分野>

### (1) 特別展「葉草のふるさと伊吹」に係る古生物調査

#### ① 調査の概要

赤坂石灰岩の層序を、紡錘虫化石を基に研究した。

本石灰岩の北部、市橋地区で新たにペルム紀最上部が存在することが判明した。また、紡錘虫化石をはじめとしていろいろな化石を採集した。

#### ② 調査の結果

赤坂石灰岩は、紡錘虫化石を基に、下部層、中部層、上部層、最上部層に分けられ、これらの各層の特徴は以下の通りである。

##### (下部層)

赤坂石灰岩最東端と大久保採掘場の東、金生山神社の北側に分布する。最下部は断層によって区切られているため不明であるが、厚さは80m以上に達する。

産出化石は、紡錘虫のほか、二枚貝、巻貝、腕足類などがみられる。

##### (中部層)

大久保採掘場の北側の貝月山付近、金生山神社の西側の上田石灰工場の北側に分布する。走向は、N10°~50°W、傾斜は30°~40°Wである。本部層は、黒色あるいは暗灰色の層状石灰岩を主体としている。本部層の厚さは約88mである。

##### (上部層)

大久保採掘場西側から中部層を途中で挟んで、赤坂石灰岩体の西側全域に分布する。走向は、N10°~20°W、傾斜は40°~50°Wである。本部層は層理の発達した黒色石灰岩が発達するが、層理の厚さが50cm以上に達すること、石灰岩が泥質であることを特徴とする。本部層の厚さは約88mである

##### (最上部層)

赤坂石灰岩西端と花崗山周辺、北部の市橋地区に分布する。白色石灰岩、白色ドロマイト質石灰岩、暗灰色石灰岩で特徴づけられ、塊状である。上部層のShikamaiaの密集層を整合でおおう。また、その上部は梅谷層に不整合で覆われるか、または、断層で接する。



赤坂石灰岩の露頭

## (2) 岐阜県恐竜化石学術調査団 (神岡町地域)

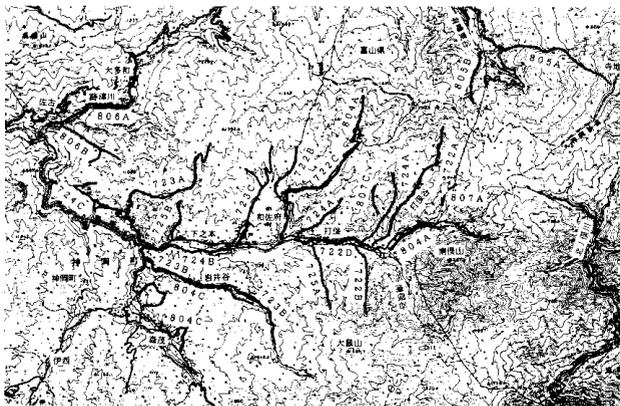
### ①調査の経緯

平成7年3月に恐竜の卵化石が確認され、岐阜県産の可能性のあることが発表された。これを契機に、岐阜県では恐竜に結びつく化石の産出の可能性のある上宝村から神岡町地域の手取層群を3年計画で調査研究することになった。平成7年度は神岡町北ノ俣川地域を調査し、この地域における手取層群の地質と化石を明らかにした。平成8年度は、北ノ俣川地域の西隣に位置する山之村地域を調査することになった。

### ②平成8年度の調査研究について

平成8年度の現地調査は、7月22日～25日と8月4日～7日にかけて実日数8日間にわたり延べ65人で行った。調査人数は多い日が9人、少ない日が7人で、野外調査ではそれぞれ2～3人のグループに分かれて山地を踏査した。調査範囲は、山之村の高原地帯から山岳地帯にかけての地域のため、山歩きの経験等を配慮して調査に当たった。地質班の調査結果に基づいて、化石班が化石の詳細調査に当たった。野外調査結果はその日のうちに発表してまとめ、翌日の調査の基礎資料とした。

野外調査のまとめは、10月26日に全員で検討を行い、その後は各担当ごとでまとめの室内作業に当たった。調査研究報告書の作成は、12月～1月にかけて行われ、1月下旬に研究指導者(岐阜大学助教授小井土由光氏)の指導を受けて行われた。



調査範囲と調査ルート

国土地理院発行の5万分の1地形図「有峰湖」・「槍ヶ岳」の一部を使用した

### ③調査結果

神岡町山之村地域に分布する手取層群は、船津花崗岩類を不整合におおって、下位から、庵谷峠礫岩部層(厚さ約200m以内)、中俣乗越砂岩部層(厚さ約200m以内)、南俣谷礫岩部層(厚さ約100m以内)および和佐府砂岩泥岩部層(厚さ400m以上)が整合して重なり、その積算層厚は約700m以上に達する。これらの地層が示す走向はほぼ東西方向であるが、西端部では北北西方向に変化する。傾斜は10°～20°NEであるが、基盤岩に近づくにつれて急傾斜構造を示す。これらの各部層中には、ほぼ地層面の



中俣乗越砂岩部分が形成する滝の調査風景  
(神岡町大多和の跡津川支流)

方向にそって貫入する珪長岩類や安山岩類がみられる。

礫岩層については、それぞれの礫岩層の礫組成を調査して、礫岩層の対比と後背地の検討資料とした。

調査地域の手取層群の絶対年代は、フィッシュン・トラック年代により測定された。手取層群の和佐府砂岩泥岩部層が1億2500万年前、貫入岩の安山岩類が1億700万年前、珪長岩類が約6500万年前と求められたが、いずれも変質をともなう資料も認められることから、その年代については今後の検討が必要である。

産出化石は、山之村地域の中俣乗越砂岩部層と和佐府砂岩泥岩部層において、細～中粒砂岩層から植物化石とわずかの生痕化石が産出した。植物化石は、オニキオプシス・スフェノプテリス・クラドフレビス・グレイケニテス・エボラシア・ポドザミテス・ギンゴイジウム・ギンゴイテス・ポトカルプスなどが認められた。動物化石は、本調査では特に見つかっていないが、巣穴などの生痕化石が数層準から見つかっているため、今後の調査に期待したい。

### ④恐竜化石について

今回の調査範囲では、恐竜化石を見つけることができなかったが、恐竜が生活していたと考えられる環境下で育った植物化石と生痕化石を採集できた。また、神岡町大多和では恐竜の足跡化石の可能性のある標本が見つかり、採取することができた。なお、調査地域の北隣にあたる富山県有峰湖の南東に流れる東俣上流域では、本調査地域に連続する地層から硬鱗魚の鱗化石や恐竜の足跡化石が報告されているので注目する必要がある。

### ⑤まとめ

神岡町山之村地域の手取層群について、地質と化石を明らかにした。今年度の調査では、恐竜に直接結びつく化石の発見はなかったが、手取層群の資料を得ることができた。これは岐阜県の恐竜時代の研究における基礎となるものである。

本年度の詳細な調査研究報告は、「岐阜県博物館調査研究報告」Vol18で発表した。

### (3) ユタ州での調査研究

#### ①はじめに

開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」に関わり、平成7年度と平成8年度にかけて、岐阜県博物館ではユタ州での調査研究を行った。

その総括として調査研究の経過とその成果を報告する。

#### ②調査研究の目的

ア、開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」の開催に伴い、展示物に関する調査と採集を行う。

イ、ユタ州内の博物館から借用する標本についての基礎的研究を行う。

ウ、ユタ州で採集した岩石等の基礎的研究を行う。

エ、調査研究の過程をとおり、ユタ州内の博物館との友好関係を作る。

#### ③調査研究の経過

ア、平成7年4月～平成8年7月

- ・文献を基に、ユタ州の地質、地形、地理をまとめる。
- ・ユタ州産の化石のリストをつくる。
- ・ユタ州の地史をまとめる。
- ・記念展図録作成。

イ、平成7年9月23日(土)～10月2日(月)

○現地調査(高橋自然係長・川合課長補佐)

- ・ユタ州ソルトフラット地域の地質調査(古生代)。
- ・ユタ州バーナル地域の地質調査(中生代)。
- ・ユタ州スプリングフィールド地域の地質調査・化石採集(古生代)。
- ・ユタ州ユインタ盆地の地質調査(新生代)。

○展示資料借用交渉等

- ・ブリガムヤング大学附属地球科学博物館での資料借用の交渉と借用資料の調査。
- ・ユタ大学ユタ自然史博物館での資料借用の交渉と借用資料の調査。
- ・東ユタ大学先史博物館での展示資料の調査。



(ユタ大学ユタ自然史博物館の展示風景)

ウ、平成8年4月19日(金)～4月26日(金)

○現地調査(川合課長補佐)

- ・ユタ州オグデン付近の地質調査と岩石採集(先カンブリア時代)。
- ・ソルトフラットでの岩石採集。
- ・ソルダースミットでの岩石採集。
- ・ブライスでの岩石採集。
- ・民俗資料の購入。

○資料借用

- ・ブリガムヤング大学附属地球科学博物館での資料借用。
- ・ユタ大学ユタ自然史博物館での資料借用。

エ、平成8年10月27日(日)～11月1日(金)

○借用資料返却(清水館長・鹿野自然係長)

- ・ブリガムヤング大学附属地球科学博物館へ資料返却。
- ・ユタ大学ユタ自然史博物館へ資料返却。



(ブライス付近での岩石採集)

#### ④成果

ア、借用資料

- ・ディプロドクス大腿骨、アロサウルス頭骨、マストドン頭骨等合計49点の実物化石を借用できた。
- ・先カンブリア時代から新生代までのすべての時代の岩石10数点を採集できた。
- ・ユタ州の地質概略、地史を把握するとともに、まとめることができた。
- ・古生代の三葉虫化石を多数採集できた。
- ・ユタ大学ユタ自然史博物館、ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と交流を持てた。
- ・ブリガムヤング大学附属地球科学博物館と友好提携の調印ができた。

#### ⑤謝辞

この調査研究にあたっては、岐阜県ユタ州駐在員の小野正行氏、ユタ州政府商務省の桜井光之氏、岐阜県青少年国際課に多大の協力をいただいた。

ここに感謝の意を表す。

2 資料数一覧

(平成9年3月10日現在)

分野	館			蔵		借用	寄託	館蔵 借用 合計 寄託
	実物	複製	自作等 その他	館蔵数合計	(寄贈内数)			
動物	30,962	16	129	31,107	(16,764)	0	0	31,107
植物	16,175	60	190	16,425	(2,615)	0	0	16,425
岩石鉱物	2,083	5	73	2,161	(543)	18	0	2,179
化石	1,982	38	20	2,040	(1,078)	47	28	2,115
その他	63	22	168	253	(21)	0	0	253
計	51,265	141	580	51,986	(21,021)	65	28	52,079

3 資料寄贈者名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
県内産魚類標本	66	中西由美子	コノハズク	1	川村 孝二
県内産貝類標本	3	〃	県内産植物標本	1850	二村 延夫
サワガニ	1	〃	可児市レッドデータプランツ	6	須賀 瑛文
ニホンジカ幼体	1	田口 幹夫	植物写真パネル	33	岩崎 一照
デメモロコ	1	西村 俊明	西濃地区植物標本	750	広田 艶子
カワセミ	1	赤塚喜代子	県内産植物標本	80	田中 太
アカショウビン	2	棚橋 利彦	蘇苔類植物標本	2500	川瀬 仙吉
クマタカ	1	福井 強志	シダ植物標本	25	村瀬 正成
アライグマ	1	小倉 忠義	オオイタヤメイゲツ等大型標本	3	林業センター
コサギ	1	千藤 克彦	四日市産第四紀貝化石	55	高橋 隆雄
		足立 芳男	金生山化石等	28	大垣内 宏



クマタカ (藤橋村)



イブキフウロ (複製)

— 人 文 部 門 —

1 調査研究

<考古分野>

○平成8年度特別陳列「ふるさとの文化財紹介展」—美濃地区—に係る調査研究

美濃地区14市町村の協力を得て、各市町村の特色がよく表れた文化財の調査研究をした。選定された文化財を平成9年2月6日から3月23日まで特別陳列として特別展示室に展示するとともに、調査研究の成果を博物館講座「美濃地区の文化財紹介」や小冊子にまとめ発表した。

○岐阜県の文化—美濃飛驒の比較研究—

美濃飛驒の遺跡、遺物、歴史遺産の文献調査や現地調査を行った。成果を博物館講座「奈良・平安時代の美濃と飛驒」で発表した。

<歴史分野>

○平成8年度飛驒美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」に係る調査研究

前年度に続き

(1) 明治維新と飛驒美濃合併

①黒船来航と幕末・維新 ②維新に活躍した郷土の先覚者 ③飛驒美濃合併

(2) 明治維新と人々の暮らし

①文明開化 事始め ②自由民権の渦 ③飛驒の工女について文献調査、現地調査を県内外各地の教育委員会、博物館、資料館において実施した。

研究の成果を、特別展の図録・博物館講座「岐阜県の明治維新」・岐阜県博物館調査研究報告Vol.18等の形で発表した。

<民俗分野>

○岩の文化の調査研究

恵那地域及び大野郡宮村における「石の信仰と伝説」及び「伝説や特異な線穴等のある岩石」について文献調査をするとともに現地調査を実施した。その調査研究の成果を小冊子にまとめた。

<美術・工芸分野>

○平成9年度特別展「花と鳥のイリュージョン」に係る調査研究

①江戸後期の染色にみる花鳥 ②写生と花鳥画～近世後期の京都画壇～ ③博物学の世紀～殿様と自然科学～ ④伝統工芸と花鳥～郡上染を中心に～ について文献資料調査や県内及び京都、東京、大阪等の現地調査を行った。その成果の一部を博物館講座「近世京都画壇と美濃」で発表した。

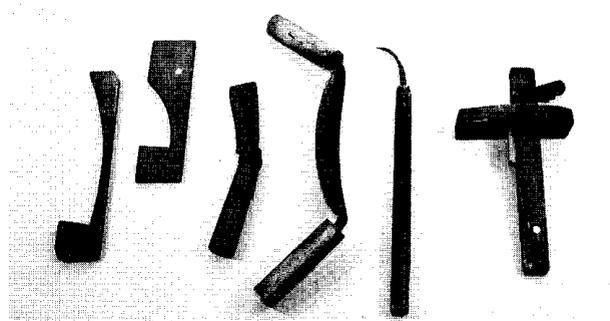
2 資料数一覧

分野	館			蔵		借用	寄託	館蔵 借用 合計 寄託
	実物	複製	自作等 その他	館蔵数 合計	( ) 寄贈・内数			
考古	1,993	164	52	2,209	(1,797)	517	187	2,913
歴史	1,360	34	122	1,516	(1,348)	21	162	1,699
民俗	2,140	2	9	2,151	(2,135)	213	30	2,394
美術・工芸	303	17	37	357	(249)	259	1,219	1,835
その他	0	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,796	217	220	6,233	(5,529)	1,010	1,599	8,842

複製には模型・ジオラマを含む(平成9年3月31日現在)

3 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名
製桶道具一式	60	小原克明
岐阜県復興第一回宝籤	1	宮崎 惇
平成9年度 合計	61	



製桶道具

## マルチメディア情報センター

### 〈マルチメディア関連イベント〉

マルチメディア情報センターの目的であるマルチメディアの普及啓発のため、幼児以上を対象としたイベント「体験！マルチメディア」を月1回（土曜日13：30～15：00）実施した。内容は次のとおりで、担当職員や解説員の間で事前研究や打ち合わせを行い、クイズを取り入れたり、操作・実演を体験してもらうなど参加者に飽きさせない工夫をしながら取り組んだ。

#### ●第一部 ハイビジョンホールでの集団体験

- ・マルチメディアの概要解説
- ・CD-ROMソフトの実演
- ・インターネット操作の実演
- ・ハイビジョンの紹介と映像比較実験
- ・書画装置による標本等資料の拡大投影
- ・ハイパーハイビジョン風土記の紹介

#### ●第二部 マルチメディアスタジオでの個別体験

- ・ハイパーハイビジョン風土記の操作
- ・CD-ROMソフトでの学習

### 〈ハイビジョンホールの活用〉

ハイパーハイビジョン風土記の紹介やハイビジョン映像の定期上映・博物館講座会場としての利用のほか、外部団体の見学や講習会・イベントなども積極的に受け入れ、そのサポートをしながら多様な活用を図った。

- ・社会見学でのマルチメディアの紹介
- ・情報処理教育センター主催教養講座
- ・映画「ジュラシックパーク」上映
- ・マルチメディアソフト制作発表会
- ・博物館協会研修講座（著作権／インターネット）
- ・NHK岐阜主催ハイビジョンイベント

### 〈マルチメディア共同利用実験事業〉

平成8年1月より9年3月までの間、通商産業省の要請により実施されたマルチメディア共同利用実験事業では、全国6ヶ所のマルチメディア情報センターやIPA（情報処理振興事業協会）の施設等を光ファイバで結び、次のような実験を通して、情報発信のための技術的ノウハウや発信情報の収集・蓄積を進めてきた。

#### (1) 丸子町とのビデオ・オン・デマンド（VOD）

長野県丸子町のマルチメディア研究センターから地域映像情報を任意に検索・閲覧するシステムの運用実験である。原則として開館から閉館まで運用を続け、その状況をモニターしたが、機器の故障以外は、特に問題なく動作していた。来館者にも開放し、マルチメディア応用事例であるVODの意義と実用性について理解を促した。

#### (2) 博物館情報の試験発信

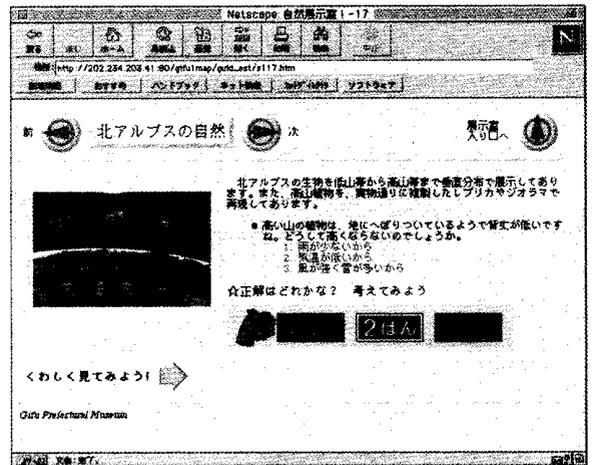
平成9年度からの情報発信に備えて、共同利用実験網に試作情報を送って実用性を検証しつつ、次の3種類の情報蓄積を進めてきた。

##### ① 博物館の概要紹介、イベント案内

##### ② 自然・人文展示コーナーの紹介・解説

##### ③ 所蔵物情報（データベース）

このうち、②では、Directorというマルチメディアオーサリングソフトを利用して、音や動きのあるクイズ形式のホームページ作りを試みた。また、③については、自然・人文学芸職員に解説原稿執筆と写真撮影を依頼し、データ投入を開始した。



博物館展示コーナー解説画面

#### (3) 葛西臨海水族園との通信実験

東京の葛西臨海水族園が慶応義塾大学の協力を得て試験的に発信していた魚類のリアルタイム映像の受信を試みた。閲覧を通して、技術的な啓蒙や当センターによる情報発信の方向性について示唆を受けた。

#### (4) マルチメディア会議実験

映像および音声をリアルタイムに送り合い、ネットワーク上で仮想会議を行うシステムの運用実験である。画像の精細さや音声の明瞭さは今一つではあるが、実用レベルで会話を行うことができた。2月12日には、実際に、富山、浜松、丸子、会津、岐阜による5元中継実験も実施し、マルチメディア時代を予見するものとして、多くの人々の興味・関心を誘った。



マルチメディア会議実施風景

なお、実験事業の詳細については、「岐阜県博物館調査研究報告」Vol.18に発表した。

## 「マルチメディア工房・ぎふ」

ハイビジョン王国・岐阜づくりの一環として「マルチメディア工房・ぎふ」の第1号として平成7年10月1日にオープンした。県内には現在までに18施設稼働し、年度末までに24施設になる計画である。県民のマルチメディアソフト制作支援の場として開放してある。

### 1. 工房の利用について

サポーターの協力を得て以下の内容の活動をした。

- ①高校生対象のハイビジョンマルチメディア制作講座を5月より10月まで計6回開催し、関高等学校の生徒7人（1年生4人、2年生2人、3年生1人）が参加した。
- ②先の制作講座終了後、参加した1年生を中心に関高等学校において「手づくりハイビジョン静止画番組ソフト制作同好会」の結成が進み12月から工房の活用が始まっている。同好会の会員は現在1年生10名である。
- ③制作講座の継続を希望するものがあり、マルチメディアソフトの利用を中心に関高等学校、中濃西高等学校の生徒4名が月1回の特別講座を受講している。
- ④団体体験者への対応として、教育センターや情報処理教育センターの受講者、工業高校の生徒、教科研究部会の委員会、関市教委主催の受講者等人数が多い場合は分割しインターネット関係とハイビジョン関係に時間を分け体験をしている。
- ⑤未来会館主催の手づくりハイビジョン静止画ソフト講座では、2グループが時間の制約から画像の取り込み等を当博物館の工房を利用した。
- ⑥マイミュージアムギャラリーの出展者の協力を得て展示作品の番組化とともにデジタルデータとしての保存をしている。

### 3. 平成8年度制作番組一覧表

①濃尾平野の魚たち	14'03"	博物館・サポーター
②弓道部の活動	3'0"	大垣商業高校教諭
③HOW TO 心肺蘇生法	3'20"	関高校生徒
④まみえる・おっくんの関高校	3'35"	関高校生徒
⑤猫のみりよく	3'10"	関高校生徒
⑥そら	3'10"	関高校生徒
⑦博物館のきのご教室	4'05"	博物館・サポーター
⑧ホームページを作ろう	5'35"	保健環境研究所・博物館
⑨茶の湯 お茶会での客の作法	9'40"	岩田社中・博物館
⑩茶の湯 お点前の初歩	6'27"	中村さん・博物館
⑪ペイント技法のいろいろ	4'42"	博物館・サポーター
⑫関商工・定時制の紹介	3'34"	関商工定教諭・博物館
⑬美濃の刀剣「鐔」	5'55"	美濃たがね会・博物館

注) マイミュージアムギャラリー出展品のうち大工道具、切手、教科書、掛け軸等を番組化する計画である。

## 2. ソフトコンテストについて

- ①H 8.11/1 第6回全国手作りハイビジョンソフトフェスタのコンテストがソフトピアを会場に開催される。当館からは6作品(HOW TO 心肺蘇生法、まみえる・おっくんの関高校、猫のみりよく、そら、博物館きのご教室、ホームページを作ろう)を応募した。高校生の作品応募は例がなく手軽にできるとの認識をアピールできた。
- ②H 9. 2/22 第1回「マルチメディア工房・ぎふ」ソフトコンテストがサポーターの交流を目的にハイビジョンの部とマルチメディアの部に分けコンテストを実施された。当館からは4作品(お茶会での客の作法、お点前の初歩、岐阜の名水、ペイント技法のいろいろ)を出品しサポーター森井健作氏制作の「ペイント技法のいろいろ」が高い評価を得て、最高の優秀賞となった。なお、当コンテストにはハイビジョンの部7作品、マルチメディアの部34作品であった。



表彰を受ける博物館サポーター森井健作氏

県内の河川に生息する魚を紹介している。

弓道部生徒の練習風景を紹介している。

救命救急法である心肺蘇生法についてコミカルに紹介。

ぬいぐるみが関高校の様子や、部活動を紹介している。

猫を見て心が和むのを期待し身近な猫を紹介している。

落ち込んでいる少年を空が励ましてくれる話です。

きのご教室の活動を中心に博物館の行事を紹介している。

工房でホームページを制作できることをおもしろく紹介。

お茶会での客の作法を入門者を対象に紹介している。

薄茶風炉点前で他流派との道具の扱いが参考になる。

見学者用に番組制作装置の機能について解説している。

(第1回工房コンテストで優秀賞獲得)

定時制生徒の学校生活を中学生向けに紹介している。

華麗な鐔の美濃鐔を中心に紹介している。

ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」中山道編のソフト制作

(1) ソフトの概要

岐阜県下を通る近世の4街道である美濃路、中山道、郡上街道、飛騨街道を基軸として、県下の人文・自然の事象を現代の風土記として紹介するソフトである。これは、対話型ソフト展開（自在な双方向検索）を可能にした世界初のハイビジョンマルチメディアソフトである。

平成6年度に「美濃路編」を完成させ、今年度中山道編を制作。

(2) 中山道編ソフト制作の留意事項

- ・ソフトの二次使用（著作権問題を含め）
- ・県民からの提供資料の活用
- ・「方言・味」のテーマ設定
- ・動画映像の増加 など

(3) 制作の進捗状況

平成8年4月	46市町村に対して写真借用の依頼 ハイビジョン動画映像の撮影（2本） ビデオ動画映像の撮影（3本）
〃 5月	ハイビジョン動画映像の撮影（7本） ビデオ動画映像の撮影（2本）
〃 6月	プラットホーム解説文の作成
〃 7月	ハイビジョン静止画の写真撮影
〃 8月	ビデオ動画映像の撮影（1本）
〃 9月	ビデオ動画映像の撮影（2本） オーバービューCG事象プロット
〃 10月	ビデオ動画映像の撮影（7本） ハイビジョン動画映像の撮影（2本）
〃 11月	ハイビジョン動画映像の撮影（3本） ビデオ動画映像の撮影（2本） 学習キーワード選定
〃 12月	館内での資料撮影及び学習キーワード解説文作成

\*年間を通じて写真資料を借用及び写真資料の新規撮影

平成9年1月	写真資料の解説文作成
〃 2月	写真資料のキャプション作成
〃 3月	ソフト納入



ハイビジョン動画映像撮影 能・狂言（根尾村）

(4) 「中山道編」の内容

対 象 地 域	関ヶ原町・春日村・坂内村・藤橋村・久瀬村・谷汲村・揖斐川町・池田町・大野町・神戸町・根尾村・本巣町・糸貫町・真正町・北方町・巣南町・穂積町・岐阜市・岐南町・川島町・各務原市・坂祝町・美濃加茂市・可児市・兼山町・八百津町・御嵩町・多治見市・笠原町・土岐市・瑞浪市・山岡町・明智町・串原村・上矢作町・岩村町・中津川市・恵那市・蛭川村・福岡町・坂下町・川上村・付知町・加子母村・関市・富加町の46市町村
事 象 数	233事象
事象紹介映像分類	ハイビジョン動画26、ハイビジョン静止画38、ビデオ動画63、写真資料68、解説文のみ38 *各事象には解説文が必ず有るので、その他の主要映像で分類した。ただし、1事象に複数の紹介映像を含むものも有る。
導 入 画 面	手書きイラストマップ+ハイビジョン動画
地 図 画 面	1階層（拡大マップなし）
コンピュータグラフィック	オーバービュー、断層など
自 由 検 索	あり
新 規 撮 影	ハイビジョン動画映像14本、ビデオ動画映像17本、静止画写真撮影（館外65回、館内3回）
二次使用動画数	ハイビジョン動画映像12本、ビデオ動画映像50本
事 象 例	壬申の乱と不破関、根尾谷断層、岐阜城、琴塚古墳、太田宿、アライグマ、東濃の味、刃物産業など

(5) まとめ

- ・ソフトの二次使用（著作権問題）については、新規撮影映像素材について、原則的に承諾を得た。
- ・県民からの提供資料活用については、各市町村教育委員会、観光課をはじめ個人所有の資料を積極的に活用した。
- ・動画映像の数は、未来会館の機材利用もあって「美濃路編」に比較して大幅に増加した。

## 〔教育普及活動〕

### 1 概要

開館20周年日にあたる平成8年度は、2つの記念展を中心に、資料紹介展等の展示やそれに関わる各種の事業が行われ、教育普及活動範囲が広がった。昨年オープンしたマイ・ミュージアム／マルチメディア情報センターが本格的に活用できるようになり、当初計画していた催しもの他に、ハイビジョンホールでの講演会や映画会、マイミュージアムギャラリーでの実演なども実施し、来館者に満足してもらえる活動を展開してきた。

さらに、博物館の活動や事業を県民に広く知っていただくために、報道機関などへのPRにも努め、県政映画「行こうよ！博物館」の製作や新聞への連載記事掲載を実現した。また、図録をA4判化するとともに、博物館リーフレットの増刷やマルチメディア工房パンフレット・館案内図等を作成し、来館者に親しめる博物館づくりに努めた。

### 2 教育活動

#### (1) 催しもの

催しものは、「講演会」(5回)、「博物館講座」(18回)、「自然観察会」(7回)、「たのしい博物館」(17回)、「特別行事」(3回)と「恐竜ゼミナール」などである。

今年度の主な催しものの活動の概要は次の通りである。

開館20周年、飛騨・美濃合併120周年を記念して博物館と友の会が共催した文化講演会を、作家阿川弘之・山田智彦両氏を講師に迎えて県民文化ホール未来会館で行った。聴講者数480名の盛大なものであり、著名な講師を招いて館外での講演会を、今後も考えて行きたい。

博物館講座では、「仏像～その形が表すもの～」と題し、5回の連続講座として実施した。昨年に引き続いて行った連続講座は、博物館リピーターを育成する上で重要である。

また、高校生を対象に6回連続で行ったハイビジョンソフト制作講座は、情報の加工・発信を目指していく重要な事業であった。

自然観察会の「セミの羽化を観察しよう」は、百年公園内で夕方から実施した。夜間実施は初めてであったが、自然の中でセミの実態をありのままに観察でき、参加者に大きな感銘を与えるものであった。

たのしい博物館では、幼児以上を対象にした「体験！マルチメディア」や「凧づくり」・「わら細工」・「紙恐竜づくり」などは、参加することで実体験ができ、博物館への関心や愛着を深める事業であった。

2年目となる恐竜ゼミナールは、博物館と上宝村で実施した。3日間にわたる多彩な催しであったが、参加者から来年も参加したいという声が聞かれ、好評であった。

特別行事の写生大会は、412名もの参加者があり、素晴

らしい入選作品を、夏休み期間中博物館に掲示した。

3年目となる林政部との共催事業「きのこ王国体験ゼミナール」は、今年も好評で運営もスムーズであった。

夏休みにハイビジョンホールで行った「ジュラシック・パーク」の映画会は、鮮明な画像で子供たちを引きつけた。ハイビジョンホールの有効的な活用ができた。

#### (2) 館内解説

入館者の希望に応じて、記念展や常設展の展示解説やマイ・ミュージアム／マルチメディア情報センターの機器使用解説を行った。博物館資料での体験学習を目的に来館した小学生に対しては、学芸員の指導の元で、資料解説を行った。

また、博物館展示解説「ワンポイントガイド」を引き続き作成し、来館者に配布した。

#### (3) 博物館における学校等の研修

学校・社会教育機関等の授業や研修を学芸員が指導・援助した。

・小学校社会科体験学習・下有知小・瀬尻小等の3年生  
・小学校理科・マルチメディア機器体験学習…下之保小  
・中学校理科自然観察学習……………小金田中他

これらの他に「岐大国際交流・短期留学生研修」「美濃地区教職員初任者研修」「県警察学校初任者研修」「県教育センター・理科助手研修」「関市少年少女科学教室」「母と子のわくわく教室」「富岡小家庭教育学級」等で博物館を活用していただいた。人文、自然、マイ・ミュージアムの各分野の担当学芸員が、研修される方々に応じて講話したり、実習指導をした。

### 3 広報活動

新聞・テレビ・ラジオ・雑誌等のマスコミに対して積極的に働きかけ、博物館の事業や活動を広報した。記念展や資料紹介展等では、展示概要が連載記事として掲載された。

また、文化庁月報(2月号)、東海3県博物館協会報や書籍『シリーズ地域の活力と魅力4「いこい」ーリゾート、テーマパークー』にも、博物館の全容を紹介し、PRに努めた。

マルチメディア工房やハイパーハイビジョン「ひだ・みの紀行」のパンフレットも作成し、各関係機関へ配布するなどの広報をした。

### 4 博物館実習生指導

8月30日から9月7日までの8日間、岐阜女子大学・日本大学・金城学院大学・九州東海大学・日本福祉大学・富山大学からは各1名、静岡大学・東海女子大学・愛知県立芸術大学からは各2名、合計12名で実施した。

5 資料の貸し出し

分野	機関名	資料名	期間	点数
人	土岐市美濃陶磁歴史館	青織部燭台	7/1～10/19	1点
	瑞浪陶磁資料館	鳴海織部台鉢	9/26～12/23	5点
文	御嵩町教育委員会	本陣表裏・陣羽織・関札	12/26～2/20	8点
	いわむら町づくり実行委員会	浅見与一右衛門関係写真	1/8～2/28	5点
自然	大垣市文化事業団	恐竜の説明及び写真パネル	5/30～9/11	20枚
	岐阜市社会福祉協議会	雷鳥スライド	6/24～7/5	5点
	岐阜県日本最古調査会	恐竜足跡化石等のスライド	6/24～10/17	9点
	さばう遊学館	昆虫標本	7/20～8/31	12箱
	大垣市文化事業団	鉱石展示パネル	7/20～9/11	7枚
	笠松町歴史民俗資料館	笠松隕石(複製)	8/10～9/30	1点
	深尾 佐波 氏	昆虫スライド	8/30～9/6	9点
	多田 昭 氏	マルクチゴマガイ	9/2～9/11	1点
	瑞浪市化石博物館	立正衛氏寄託化石資料	10/4～12/14	4点
	多治見市文化会館	哺乳類調製標本	11/2～11/16	12点
	関市立桜ヶ丘中学校	化石等の展示用パネル	11/7～11/30	18枚
	名古屋博物館	ショウジョウスケと ショウジョウバカマ標本	2/1～3/31	10点
	企画部企画調整課	デスマルチルス骨格スライド	1/22～2/7	1点

6 図書資料

平成8年度現在の図書資料数は、下記の通りである。

	図書資料数 (平成9年3月20日現在)	備 考
人文関係	11,202冊	含刀剣文庫
自然関係	8,815冊	含棚橋源太郎文庫
総 計	20,017冊	

7 刊行物

本年度は開館20周年、飛騨・美濃合併120周年という年にあたり、二つ記念展を実施した。この主要事業を中心に多くの刊行物を発行し、県民へのPRに努めた。

情報の国際化が急激に進み、印刷物がA4判化される中、本年度は記念展図録をB4判からA4判にしたことが大きな変化であった。

以下、本年度刊行した出版物は、下記の通りである。

<平成8年度 刊行物一覧>

名 称	発行年月日	判、頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第59号	8. 4. 1	A 4 4頁	2,500	友の会増刷 (各500)
岐阜県博物館だより 第60号	8. 7. 1	A 4 4頁	2,500	
岐阜県博物館だより 第61号	8. 10. 1	A 4 4頁	2,500	
岐阜県博物館報 第19号	8. 4. 1	A 4 36頁	1,000	
平成8年度 岐阜県博物館催しもの案内 (B3判)	8. 4. 1	B 3	3,000	
平成8年度 岐阜県博物館催しもの案内 (A4判)	8. 4. 1	A 4 3ツ折	30,000	
博物館リーフレット	8. 4. 1	A 4 8頁	10,000	
入館者案内地図	8. 4. 1	A 4	5,000	
ハイパーハイビジョン 風土記「ひだ・みの紀行」パンフレット	9. 2. 15	A 4 4頁	20,000	
マルチメディア工房パンフレット	9. 3. 31	A 4 3ツ折	10,000	
岐阜県博物館調査研究報告書 Vol.18	9. 3. 31	A 4 100頁	700	
特別展図録 恐竜のふるさとユタ	8. 7. 16	A 4 56頁	600	友の会増刷 (1,200)
岐阜県の明治維新	8. 10. 8	A 4 62頁	600	(1,000)
特別展図録の増刷 飛騨の匠	8. 4. 1	B 5 66頁	0	友の会増刷 (1,000)
土と炎の芸術	8. 4. 1	B 5 72頁	0	(600)
特別展等のポスター・ちらし				友の会発行
海拔0mから3000mへの旅	8. 4. 2	B 2	1,000	
海拔0mから3000mへの旅	8. 4. 2	B 5	20,000	
恐竜のふるさとユタ	8. 7. 16	B 2	2,000	
恐竜のふるさとユタ	8. 7. 16	B 5	25,000	
恐竜セミナー	8. 6. .	A 2	2,000	
恐竜セミナー	8. 6. .	B 5	15,000	
岐阜県の明治維新	8. 10. 8	B 2	2,000	
岐阜県の明治維新	8. 10. 8	B 5	25,000	
ふるさと文化財紹介展	9. 2. 6	B 2	2,000	
ふるさと文化財紹介展	9. 2. 6	B 5	25,000	
文化講演会	8. 9. .	A 4	5,000	
資料紹介展・特別陳列パンフレット・冊子				友の会増刷(1,000)
海拔0mから3000mへの旅	8. 4. 2	B 5	1,000	
ふるさと文化財紹介展	9. 2. 6	A 4 8頁	5,000	
ふるさと文化財紹介展	9. 2. 6	B 5	500	
恐竜セミナー	8. 8. 20	A 5 24頁	250	
マイ・ミュージアム刊行物				
マイ・コレクション第7号	8. 4. 6	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第8号	8. 5. 18	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第9号	8. 6. 30	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第10号	8. 8. 11	A 4 4頁	1,500	
マイ・コレクション第11号	8. 10. 1	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第12号	8. 11. 12	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第13号	9. 1. 5	A 4 4頁	1,000	
マイ・コレクション第14号	9. 2. 18	A 4 4頁	1,000	
マイミュージアムギャラリー	8. 4. 1	B 2	1,000	
マイミュージアムギャラリー	8. 4. 1	A 4	10,000	

## 8 恐竜ゼミナールGIFU'96 in KAMITAKARA

～学ぼう古生代から中生代の化石～

### (1) 事業の経緯

全国のこどもたちに恐竜全般、化石、地層などに関する正しい知識を身につけさせる中で、恐竜時代の夢とロマンを体験する企画として平成7年度に始まった。2年目となった平成8年度は、吉城郡上宝村との共催事業とし、主会場も上宝村内で実施した。

### (2) 事業の内容

本事業は、恐竜や化石についての基本的な知識を学ぶ恐竜・化石セミナーと化石の観察会を柱に、多彩な催しを3日間にわたって実施した。

#### ①第一日目(8月20日(火))

ア 会場 県博物館ハイビジョンホール  
七宗町「日本最古の石博物館」ほか

#### イ 内容

ハイビジョンでの恐竜学習、開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」での恐竜学習、日本最古の石博物館の見学と研修

ウ 参加者 100名

#### ②第二日目(8月21日(水))



ア 会場 上宝村観光会館

#### イ 内容

奥飛驒の自然観察会

講師：近藤紀巳、大森清孝(飛驒自然史学会)

恐竜・化石セミナー

「不思議いっぱい!の古代生物-恐竜-」

講師：東京大学名誉教授 濱田隆士

「動物らしくなってきた恐竜」

講師：恐竜イラストレーター ヒサクニヒコ

「ロマンが一杯!アメリカの恐竜」

講師：ブリガムヤング大学附属地球科学博物館

副館長 ケネス・リー・スタッドマン

「恐竜ランド!GIFU」 講師：館学芸員

ヒサクニヒコの恐竜イラスト教室

おたのしみクイズ大会

ウ 参加者215名

#### ③第三日目(8月22日(木))

ア 会場 上宝村福地温泉一帯

#### イ 内容

古生代の化石セミナー

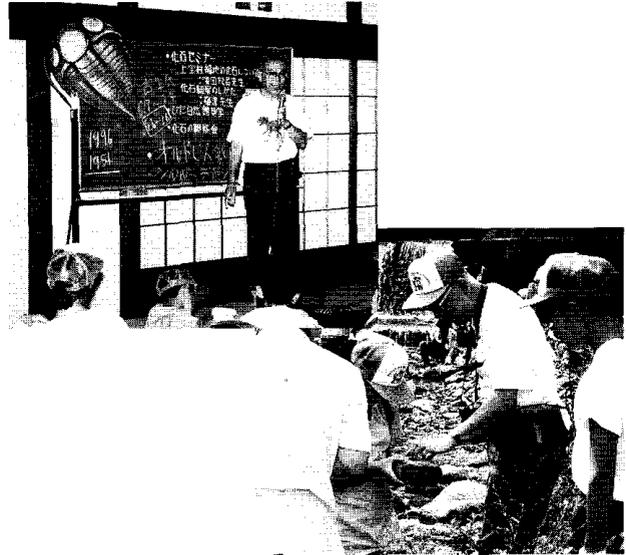
「上宝村福地の化石について」講師：濱田隆士

「化石観察の方法」 講師：館学芸員

古生代の化石の観察会 指導：館学芸員

ひだ自然館(日本最古の化石)の見学

ウ 参加者 183名



### (3) 事業実施の経過

本年度、上宝村(担当部署：商工観光課)との共催となり両者で綿密な連絡を取り合って事業計画を進めた。基本的には、事業内容については県博物館が、会場等の設営については上宝村が、参加者募集、広報については両者が協力して担当した。

#### ①広報関係

関係機関へのポスター、チラシの配布に加えて、参加者募集にかかわる記者への資料配布を2回行った。岐阜県、愛知県の小学校に参加者募集の依頼をするとともに、学習研究社の小学5・6年の「科学」に参加者募集の広告を掲載した。また、上宝村の東京における観光イベントでもチラシの配布など広報活動をした。

#### ②実施状況

参加者の受付は、県博物館と上宝村の両者で受付をした。上宝村では、主として飛驒地方の小学5・6年生を対象に、メイン会場である上宝村を集合解散する参加者を募集し、県博物館ではそれ以外の地域の小学5・6年生とその保護者を対象に2泊3日の参加者を募集した。

事業実施については、上宝村教育委員会、同観光協会、同基幹集落センター職員などの協力を得てスムーズに進めることができた。

#### (4) 今後の方向

平成9年度は、平成8年度と同様に上宝村と共催とし、事業計画を進めている。

平成8年度催しもの一覧

事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人員
記念展講演会	8/11			「北アメリカの恐竜」 国立科学博物館古生物第3研究室長 富田 幸光氏	185
	8/18			「アメリカ恐竜最前線」 ブリガムヤング大学附属地球科学博物館 ケネス・リー・スタッドマン氏	195
	10/27			「明治維新と飛騨」 岐阜大学 教授 松田 之利氏	145
文化講演会	11/16		500	「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」 作家 阿川 弘之氏 「岐阜県と私」 作家 山田 智彦氏 場所：県民文化ホール 未来会館	480
記念講演会	6/16			「よみがえる縄文の世界」愛知学院大学教授 大参養一氏他	184
	8/16			「日本の罫」 美濃たがね会 会長 渡辺 健一氏	55
博物館講座	5/5	高校生	8	海拔0mから3000mの植物	47
	5/11			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座I	7
	5/19	高校生	8	海拔0mから3000mの動物・昆虫	52
	6/8			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座II	7
	6/30	高校生	8	仏像～その形が現わすもの～I 大垣市文化事業団大前匡昭氏	103
	7/20			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座III	
	8/10	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座IV	6
	9/14			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座V	7
	9/29	高校生	8	仏像～その形が現わすもの～II 大垣市文化事業団大前匡昭氏	7
	10/20			きのこの講和 朝日村秋神温泉 小林 繁氏	103
	10/26	高校生	8	岐阜市立女子短期大学 教授 森 基子氏	63
	11/10			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座VI	40
	11/24			岐阜県の明治維新	99
	1/26			仏像～その形が現わすもの～III 大垣市文化事業団大前匡昭氏	83
	2/9			仏像～その形が現わすもの～IV 大垣市文化事業団大前匡昭氏	70
2/23			奈良・平安時代の美濃と飛騨	73	
3/9			近世京都画壇と美濃	53	
3/23			美濃地区の文化財紹介		
			仏像～その形が現わすもの～V 大垣市文化事業団大前匡昭氏		
自然観察会	4/29	小中学生とその親	100	観察のこみちの樹木を調べよう(グリーンアドベンチャー事業)	254
	7/30			セミの羽化を観察しよう	16
	8/6	幼児とその親	40	夏の植物ウォッチングI	19
	8/13			夏の植物ウォッチングII	11
	10/13	小中学生	40	化石ウォッチング	19
	1/11			百年公園のバードウォッチング	33
	3/8			春のめざめ 植物ウォッチング	
恐竜セミナー G I F U	8/20	小学5・6年生 とその親	50組 100	恐竜回廊セミナーGIFU'96 in KAMITAKARA 共催：上宝村	100
	8/21			～学ぼう古生代から中生代の化石～	215
	8/22			東京大学名誉教授濱田隆士、恐竜イラストレーターヒサクニヒコ	183
陶芸教室	9/22	一般	30	茶碗 陶芸家 岡田孝司・春海氏	30
たのしい博物館	4/13	幼児以上	50	体験！マルチメディア	75
	4/27			よろい・かぶとを着てみよう	83
	5/24	幼児以上	40	体験！マルチメディア	105
	6/22			体験！マルチメディア	35
	6/23	幼児以上	40	徳山のくらしを体験しよう	275
	7/13			体験！マルチメディア	43
	9/28	幼児以上	40	体験！マルチメディア	69
	10/12			体験！マルチメディア	中止
	11/9	幼児以上	40	紙で恐竜をつくろう	35
	11/23			体験！マルチメディア	48
	12/14	幼児以上	40	体験！マルチメディア	24
	12/15			凧をつくってあげよう	48
	12/22	幼児以上	50	わら細工(正月の飾りをつくろう)	48
1/25	体験！マルチメディア			43	
2/8	幼児以上	40	体験！マルチメディア	17	
2/22			クイズで探検！博物館	41	
3/22	幼児以上		体験！マルチメディア	103	
特別行事	5/26	親子	100	百年公園・博物館を写生しよう	412
	10/20			きのこ王国岐阜体験セミナー	121
	1/7			七草がゆを食べよう	243
ハイビジョン 映画上映会	8/4		各回 130	ジュラシック・パーク(合計9回上映)	---
	～5				
	3/25			忍たま乱太郎、岩稜に挑む、ネイチャーワールド、 大自然スペシャルーグランドキャニオンー	---
	～31		130		

## 〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成8年3月1日～  
平成9年2月28日) (順序不同)

### 〔博物館関係〕

国立歴史民俗博物館	埼玉県立自然史博物館	高原のミュージアム	鳥羽水族館
東京国立博物館	千葉県立中央博物館	柏崎市立博物館	斎宮歴史博物館
国立科学博物館	千葉県立美術館	長岡市立科学博物館	藤原店自然科学館
東京国立近代美術館	我孫子市鳥の博物館	相川郷土博物館	大津市歴史博物館
国立科学博物館附属自然教育園	市立市川鳥の博物館	十日町市博物館	滋賀県立琵琶湖文化館
京都国立博物館	市立市川考古博物館	高岡市立博物館	滋賀県立琵琶湖博物館
国立民族学博物館	市立市川自然博物館	富山市郷土博物館	滋賀県立近代美術館
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	千葉県立現代産業科学館	富山市科学文化センター	彦根城博物館
北海道開拓記念館	君津市立久留里城址資料館	富山市科学文化センター	滋賀県立安土城考古博物館
北海道立北方民族博物館	千葉県立大根博物館	魚津水族館	滋賀県立陶芸の森
小樽市博物館	千葉県立上総博物館	高岡市万葉歴史館	栗東歴史民俗博物館
小樽市青少年科学技術館	千葉県立安房博物館	富山県立立山博物館	京都市考古資料館
釧路市立博物館	船橋市郷土資料館	富山市ファミリーパーク公社	京都府立総合資料館
苫小牧市博物館	千葉県立総南博物館	立山カルデラ砂防博物館(仮)	京都府立文化博物館
苫小牧市科学センター	千葉県立房総のむら	石川県立歴史博物館	霊山歴史館
市立函館博物館	足立区立郷土博物館	石川県立美術館	京都府立丹後郷土資料館
根室市博物館開設準備室	船橋区立郷土資料館	石川県輪島漆芸美術館	大阪市立博物館
上士幌町ひがし大雪博物館	大田区立郷土博物館	小松市立博物館	大阪市立科学館
斜里町立知床博物館	紙の博物館	松任市立中川一政記念美術館	大阪市立自然歴史博物館
穂別町立博物館	船の科学館	のど海洋ふれあいセンター	大阪人権博物館
浦幌町郷土博物館	渋谷区立松涛美術館	大野市歴史民俗資料館	吹田市立博物館
江別市陶芸の里セラミックアートセンター	たばこと塩の博物館	石川県白山自然保護センター	大阪府立弥生文化博物館
利尻町立博物館	東京都江戸東京博物館	福井県立博物館	堺市博物館
青森県立郷土館	世田谷区立郷土資料館	福井市自然史博物館	柏原市立歴史資料館
八戸市博物館	家具の博物館	福井県自然保護センター	岸和田市立郷土資料館
岩手県立博物館	通信総合博物館	敦賀市立博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館
北上市立鬼の館	豊島区立郷土資料館	福井県立美術館	神戸市立博物館
岩手県農業博物館	三井文庫	静岡県立博物館	神戸海洋博物館
仙台市博物館	港区立港郷土資料館	久能山東照宮博物館	神戸市立小磯記念美術館
仙台市科学館	サントリイ美術館	上原仏教美術振興財団	兵庫県立歴史博物館
斎藤報恩会自然史博物館	江戸東京たてももの園	下田海中水族館	姫路文学館
鹽釜神社博物館	多摩六都科学館	沼津歴史民俗資料館	尾崎歴史博物館準備室
仙台市歴史民俗資料館	調布市郷土博物館	沼津市明治史料館	兵庫県立人と自然の博物館
東北歴史資料館	八王子郷土資料館	富士市立博物館	伊丹市昆虫館
地底の森ミュージアム	府中市郷土の森博物館	浜松市博物館	大和文華館
秋田県立博物館	東京都高尾自然科学博物館	焼津市歴史民俗資料館	橿原市千塚資料館
秋田県立近代美術館	福生市郷土資料館	愛知県美術館	県立橿原考古学研究所付属博物館
山形県立博物館	J R A 競馬博物館	徳川美術館	香芝市二上山博物館
致道博物館	町田市立博物館	熱田神宮宝物館	市立五條文化博物館
県立うきたむ風土記の丘考古資料館	宮内庁三の丸尚蔵館	名古屋博物館	奈良県立民俗博物館
山寺芭蕉記念館	神奈川県立歴史博物館	名古屋科学館	和歌山県立博物館
福島県立博物館	神奈川県立金沢文庫	名古屋美術館	和歌山市立博物館
野馬追の里歴史民俗資料館	馬の博物館	でんきの科学館	和歌山県立自然博物館
会津民俗館	横浜美術館	名古屋市見晴台考古資料館	鳥取県立博物館
三春町歴史民俗資料館	横浜マリタイムミュージアム	一宮市博物館	島根県立博物館
茨城県立歴史館	横浜市歴史博物館	博物館明治村	岡山県立博物館
仙台市科学館	川崎市市民ミュージアム	リトルワールド	岡山県立美術館
水戸市立博物館	神奈川県立生命の星・地球博物館	日本モンキーセンター	岡山市立オリエント美術館
土浦市立博物館	平塚市博物館	豊田市郷土資料館	津山洋学資料館
日立市郷土博物館	芽ヶ崎市文化資料館	豊橋市美術館	倉敷市立自然史博物館
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	秦野市立桜上手古墳展示館	豊橋市美術博物館	広島市安佐動物公園
栃木県立博物館	横須賀市自然人文博物館	豊橋市自然史博物館	広島県立美術館
小山市立博物館	川崎市立日本民家園	豊橋市地下資料館	広島県立歴史博物館
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	山梨県立文学館	豊橋市二川本陣資料館	日本はきもの博物館・郷土玩具博
栃木県立なす風土記の丘資料館	山梨県立美術館	岡崎市教育委員会岡崎市郷土資料館	広島県立歴史民俗資料館
群馬県立歴史博物館	山梨県立考古博物館	安城市歴史博物館	耕三寺博物館
群馬県立近代美術館	清里フォトアートミュージアム	知立市歴史民俗資料館	宮島町立宮島歴史民俗資料館
浦和市立郷土博物館	松本市立博物館	半田市立博物館	山口県立山口博物館
埼玉県立博物館	日本民俗資料館	尾西市歴史民俗資料館	新市町立歴史民俗資料館
埼玉県さきたま資料館	長野市立博物館	碧南市青少年海の科学館	広島城
戸田市立郷土博物館	長野県立歴史館	トヨタ博物館	美禰市歴史民俗資料館
埼玉県立歴史資料館	飯田市美術博物館	鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館	秋吉台科学博物館
	飯田市上郷考古博物館	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館	徳島県立博物館
	上田市立博物館	三重県立博物館	徳島市立徳島城博物館
	大町山岳博物館	四日市市立博物館	高松市歴史資料館
	須坂市立博物館	桑名市博物館	香川県歴史博物館建設準備室
	信濃町立野尻湖ナウマンゾウ博物館	海の博物館	香川県自然科学館

高松市美術館  
愛媛県立博物館  
愛媛県総合科学博物館  
愛媛県歴史文化博物館  
高知市立自由民権記念館  
高知市立歴史民俗資料館  
福岡市博物館  
北九州市立考古博物館  
北九州市立自然史博物館  
九州歴史資料館  
佐賀県立博物館／美術館  
長崎県立美術館  
長崎市立博物館  
熊本市立熊本博物館  
熊本県立美術館  
八代市立博物館未来の森ミュージアム  
宇佐風土記の丘民俗資料館  
大分県立先哲史料館  
宮崎県総合博物館  
鹿児島県立博物館  
鹿児島市立美術館  
鹿児島県歴史資料センター黎明館  
尚古集成館  
ミュージアム知覧  
岐阜県博物館  
岐阜県歴史資料館  
岐阜県美術館  
岐阜県図書館  
岐阜県陶磁資料館  
岐阜市歴史博物館  
岐阜市科学館  
各務原市歴史民俗資料館  
内藤記念くすり博物館  
森の文化博物館  
大垣市郷土館  
大垣市歴史民俗資料館  
タルイピアセンター  
美濃和紙の里会館  
海津町歴史民族資料館  
可見郷土資料館  
土岐市美濃陶磁歴史館  
中山道みたけ館  
瑞浪市陶磁資料館  
半原版画館  
高山市郷土館

〔博物館協会〕

日本博物館協会  
全国科学博物館協議会  
全日本博物館学会  
ハイビジョンミュージアム推進協議会  
日本ミュージアム・マネージメント学会事務局  
東海地区科学施設協議会

〔役所関係〕

札幌市市民局文化部  
青森県企画部県史編さん室  
福島県児童文化センター  
いわき市教育文化事業団  
建設省国土地理院  
千葉県文書館県史編さん室  
文化庁書陵部  
文部省大臣官房  
総理府男女共同参画室  
科学技術庁  
東京都教育長生涯学習部文化課  
文化庁文化財保護部  
日本科学技術振興財団  
愛知県総務部文書課

通商産業省中部通商産業局  
春日井市役所  
名古屋営林支局  
名古屋植物防疫所  
木曾川下流工事事務所  
木曾川上流工事事務所  
大阪府泉佐野市社会教育課  
岐阜県総務部  
岐阜県企画部  
岐阜県商工労働部  
岐阜県農政部  
岐阜県衛生環境部  
岐阜県地方自治入学校  
岐阜県保健環境研究所  
岐阜県工業技術センター  
岐阜県工業試験場  
岐阜県農産総合研究センター  
岐阜県水産試験場  
岐阜県国際センター  
岐阜県広報センター  
岐阜県デザイン振興会  
岐阜県研究開発財団  
岐阜県ふれあい会館  
花の都さぶ推進センター  
岐阜県産業文化振興事業団  
岐阜県スポーツ振興事業団  
岐阜県冷凍教育検査事務所  
岐阜県産業経済研究センター  
岐阜県企画設計センター  
武儀県事務所  
高富町役場  
輪之内町役場  
藤橋村役場  
小坂町役場  
可見市役所  
白鳥町役場  
平田町役場  
関市役所  
萩原町役場  
富加町役場  
土岐市役所  
古川町役場  
川島町役場  
川島町民会館  
大垣市立図書館  
美濃市文化会館  
関文化会館  
岐阜簡易保険事務所  
ソフトピアジャパン  
スイトピアセンター  
各務原市民会館

〔教育委員会関係〕

北海道教育庁生涯学習文化課  
東京教育庁  
調布市教育委員会  
世田谷区教育委員会  
町田市教育委員会  
厚木市教育委員会  
三宅村教育委員会  
藤沢市教育委員会  
加賀市教育委員会  
浜松市教育委員会  
浜岡市教育委員会  
江南市教育委員会  
佐屋町教育委員会  
名古屋市教育委員会  
神奈川県教育庁文化財保護課  
岡谷市教育委員会

佐久市教育委員会  
春日井市教育委員会  
一宮市教育委員会  
津市教育委員会  
亀山市教育委員会  
滋賀県教育委員会  
多度町教育委員会  
能登川町教育委員会  
田辺町教育委員会  
能勢町教育委員会  
尼崎市教育委員会  
甘木市教育委員会  
長崎県教育庁  
大分県立先哲史料館  
岐阜県教育委員会  
岐阜市教育委員会  
岐阜県教育センター  
岐阜県情報処理教育センター  
グリーンテクノセンター  
岐阜県文化財保護センター  
岐阜メモリアルセンター  
岐阜県生涯学習センター  
真正町教育委員会  
大垣市教育委員会  
大野町教育委員会  
根尾村教育委員会  
板取村教育委員会  
八幡町教育委員会  
坂内町教育委員会  
本巣町教育委員会  
南濃町教育委員会  
関市教育委員会  
明宝村教育委員会  
和良村教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
可見市教育委員会  
中津川市教育委員会  
恵那市教育委員会  
福岡町教育委員会  
高山市教育委員会  
宮川村教育委員会  
岐阜市少年自然の家  
関ヶ原青少年自然の家  
御嶽少年自然の家  
岐阜県高等学校教育研究会  
岐阜県小中学校長会  
岐阜教育会  
岐阜県高等学校長協会  
岐阜県PTA連合会

〔学校関係〕

秋田大学鉱学部付属鉱業博物館  
山形大学付属博物館  
筑波大学歴史人類学系  
図書館情報大学付属図書館  
川村学園女子大学図書館  
東京大学総合研究博物館  
国学院大学博物館学研究室  
国学院高等学校  
国学院大学考古学資料館  
東京農業大学農業資料室  
日本大学文理学部自然科学研究所  
明治大学刑事博物館  
明治大学考古学博物館  
明治大学学芸員養成課程  
学習院大学  
東京大学地震研究所  
青山学院大学文学部考古学資料室  
多摩美術大学美術学部

実践女子大学博物館学研究室  
実践美術史学会  
法政大学文学部考古学研究所  
武蔵野美術大学  
東京家政学部生活文化博物館  
国際基督教大学湯浅八郎記念館  
神奈川大学日本常民文化研究所  
東海大学校地内遺跡調査団  
日本大学濃医医学部資料館  
帝京大学山梨文化財研究所  
金沢美術工芸大学図書館  
静岡大学理学部地球学科教室  
東海大学海洋科学博物館  
名古屋大学古川総合研究資料館  
名古屋大学文学部美術史研究室  
名古屋大学大気水圏科学研究所  
市邨学園大学人文学科研究会  
日本福祉大学社会福祉総合研修センター  
市邨学園地域社会研究会  
市邨学園自然科学研究会  
愛知大学総合郷土研究所  
愛知大学文  
名古屋造形芸術大学図書館  
同志社大学博物館学芸院課程  
立命館大学国際平和ミュージアム  
仏教大学総合研究所  
関西大学博物館  
大阪大学文学部考古学研究室  
近畿大学民俗学研究所  
天理大学付属天理参考館  
九州産業大学芸術学会  
岐阜第一女子高等学校  
岐阜三田高等学校  
不破高等学校  
関市立関商工高等学校  
可見高等学校  
羽島高等学校  
加茂高等学校  
岐阜大学教育学部  
岐阜薬科大学  
岐阜市立女子短期大学  
東海女子大学  
岐阜経済大学地域経済研究所  
聖徳学園岐阜教育大学  
聖徳学園女子短期大学  
中京短期大学  
中京女子短期大学  
中部女子短期大学  
大垣女子短期大学  
正眼短期大学  
岐阜医療技術短期大学  
放送大学

〔研究機関・出版社・その他〕

東京国立文化財研究所  
宮内庁書陵部  
宮内庁正倉院事務局  
奈良国立文化財研究所  
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館  
北海道立アイヌ民族文化研究センター  
青森県埋蔵文化財調査センター  
三内丸山遺跡対策室  
あきた結び文化研究会  
福島県児童文化センター  
地質調査所  
水彩連盟  
千葉県文化財センター  
東レ科学振興会  
科学技術館

日本研究所  
足立区伊興遺跡調査会  
文化環境研究所  
日本工学会  
山武ハネウェル  
葛飾区遺跡調査会  
日本ユネスコ協会連盟  
日本昆虫協会  
視聴教材センター  
古文化財科学研究会  
ポーラ文化研究所  
味の素食の文化センター  
久保田イセキ調査会  
都立学校遺跡調査会  
科学技術広報財団  
溜池・駒込間遺跡調査会  
日本芸術文化振興会  
青少年交友協会  
日本ナショナルトラスト  
三貴  
東京貝類同好会  
地下鉄七号線白金工事事務所遺跡調査会  
練馬区遺跡調査会  
センチュリーミュージアム  
丹精総合研究所・文化空間研究所  
ニューメディア振興センター  
宇宙開発事業団  
金属鉱業事業団資源情報センター  
読売新聞社文化事業部  
朝日新聞社出版局  
安田生命クオリティオブライフ文化財団  
日本アイスクリーム協会  
アジア女性基金  
ザ・ミュージアム  
地域創造  
西国分寺地区遺跡調査会  
東京都埋蔵文化財センター  
ココロ  
日野市落川遺跡調査会  
落川・一の宮遺跡調査会  
武蔵国分寺関連遺跡調査会  
府中病院内遺跡調査会  
御殿場遺跡調査会  
社会教育研修所  
衣生活研究所  
神奈川県埋蔵文化財センター  
玉川文化財研究所  
川崎市立日本民家園  
平岡環境科学研究所  
横須賀市遺跡調査団  
神奈川県立自然保護センター  
神奈川県立自然保全研究会  
長野県埋蔵文化財センター  
猪谷関所館  
富山県埋蔵文化財調査事務所  
富山県埋蔵文化財センター  
富山市ファミリーパーク公社  
静岡県埋蔵文化財調査事務所  
犬山市文化資料館  
愛知県文化振興事業団  
中部産業活性化センター  
中部建設協会  
名古屋美術青年会  
美術文化史研究会  
行動と文化研究会  
考古学フォーラム  
瀬戸市埋蔵文化財センター  
豊橋市埋蔵文化財調査事務所  
愛知県埋蔵文化財センター

津市埋蔵文化財センター  
四日市市遺跡調査会  
三重自然誌の会  
三重動物学会  
三重県埋蔵文化財センター  
滋賀県埋蔵文化財協会  
日本イムワン研究会  
坂田郡社会教育学文化財部会  
京都服飾文化研究財団  
国民融合をめざす部落問題全国会議  
古代学協会  
名神高速道路内遺跡調査会  
国際日本文化研究センター  
道修町文書保存会  
日本生命財団  
大阪府文化財調査研究センター  
クボタ  
のじぎく文化財保護研究財団  
黒川古文化研究所  
奈良県立同和問題関係史料センター  
帝塚山考古学研究所  
元興寺文化財研究所  
シルクロード学研究センター  
岡山県自然保護センター  
宮島町立宮島歴史民俗資料館  
広島県歴史科学教育事業団  
広島城  
熊平制作所  
蔵島神社社務所  
下関市立考古博物館  
徳島県埋蔵文化財センター  
福岡市埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
岐阜県文化財保護協会  
中山道加納宿文化保存会  
岐阜県超古代文化研究所  
岐阜県ユネスコ協会  
南長森郷土史会  
岐阜史学会  
岐阜県植物研究会  
創価学会岐阜県広報部  
慈齋研究会  
各務原市埋蔵文化財調査センター  
岐阜県昆虫同好会  
養老町文化財保護協会  
垂井町文化財保護協会  
東海地理研究会  
美濃民俗文化の会  
霊山顕彰会岐阜県支部  
地域経済研究所  
岐阜県哺乳動物調査研究会  
八幡町文化財保護協会  
美濃文化財研究会  
武儀農業改良普及センター  
武儀福祉事務所  
瑞浪市文化協会  
多治見市文化財保護センター  
土岐市埋蔵文化財センター  
高山市歴史研究会  
白川郷合掌造り民家園  
合掌造り集落産業遺産記念事業実行委員会  
NHK岐阜放送局  
飛騨考古学会  
芸術出版社  
郷土出版社  
美術倶楽部  
遊美の会  
日本美術刀剣新聞社  
岩波書店

ぎょうせい  
雄山閣出版  
続群書類従完成会  
東京美術  
講談社  
コクヨ  
美濃揖斐谷通信編集室  
郡上史談会  
書道心画院  
北白川書房  
西美濃わが街社  
飛騨山王宮日枝神社  
岐阜新聞社

【個人】

香林寺岡本岡一  
清水昭男  
宮崎 悟  
村瀬卓郎  
古田平一郎  
小出義彦  
長瀬秀雄  
若田俊一  
川地利昭  
曾我孝司  
小原克朗  
奥田知安  
小川一平  
鶴飼修司  
石田明乗  
伊藤康子  
以上

## 〔利用状況〕

### 1 入館者数

本年度は、入館者数69,850人で前年に比べて3,962人、5.4%の減となったが、これは前年度にマイミュージアム棟が開館し、入場者が大幅に増加したことによる。

開館日数は304日、一日平均の入館者数は230人であった。また、一日の入館者がもっとも多かった日は、9月8日（記念展最終日）で、1,559人を数えた。

月別の入館者数は右表のとおりである。

団体入館者数は2,299人で、入館総数の約3.2%であった。月別では9月が一番多く、団体入館者総数の21.9%を占めている。

開館20周年および飛騨美濃合併120周年記念展の期間中の入館者数は、右表のとおりである。入館総数は33,339人を数え、一日平均は397人であった。

月	小中生	高大生	一般	計	開館日数	一日平均
4	2,968	48	2,553	5,569	25	223
5	4,384	112	4,263	8,759	27	324
6	1,589	172	3,704	5,465	26	210
7	1,754	69	2,833	4,656	26	179
8	5,934	117	6,975	13,026	27	482
9	3,014	62	3,458	6,534	25	261
10	5,519	55	3,549	9,123	27	338
11	2,712	128	3,987	6,827	26	263
12	411	23	838	1,272	22	58
1	600	33	965	1,598	23	69
2	799	65	1,716	2,580	24	107
3	1,501	57	2,883	4,441	26	171
計	31,185	941	37,724	69,850	304	230

記念展名	期間	小中生	高大生	一般	計
恐竜のふるさとユタ	7/16～9/8	8,752	180	10,476	19,408
岐阜県の明治維新	10/8～11/17	7,272	157	6,502	13,931
計		16,024	337	16,978	33,339

### 2 施設利用

今年度の講堂及び研修室の利用者は、次のとおりであった。

〈講堂〉

6/11	岐阜県高等学校教育研究会総会
7/10	岐阜県シルバー大学講座
8/7	岐阜市校外研修小学校理科部会
9/8	関市母と子のワクワク教室
9/9	岐阜県高等学校長協会常任理事会
10/31	岐阜県警察職員生涯生活設計研修会
3/13	中濃法人会女性部会研修会

〈研修室〉

5/4	岐阜県シタ植物研究会
5/11	岐阜県哺乳類動物調査研究会
7/17	岐阜大学夏期短期留学生研修会
7/25	岐阜県教育センター理科実験講座
7/26	関市少年少女科学教室
7/27	岐阜県シタ植物研究会
8/9	関市少年少女科学教室
8/13	岐阜県高等学校理科助手研究会
10/26	岐阜県シタ植物研究会
11/19	岐阜県教育センター理科野外学習会
12/18	岐阜県私立高等学校長会
1/14	岐阜県高等学校理科教育研究会
1/29	関市中学校理科研究部会
2/8	岐阜県シタ植物研究会

〈主な事業〉

5/13	第1回役員会及び通常総会
6/20～21	東海地区博物館連絡協議会総会
6/28	第34回会員研修会
6/29	第68回公開講座
8/1	機関紙「岐阜の博物館」第114号発行
9/21	第69回公開講座
9/21～22	第35回会員研修会
10/4～5	東海三県博物館協会交流研修会
10/27	第70回公開講座
11/1	機関紙「岐阜の博物館」第115号発行
11/6～7	全国博物館大会
11/15	第36回会員研修会
1/31	機関紙「岐阜の博物館」第116号発行
2/14	第71回公開講座
2/14	公開講座委員会
2/18	会員研修委員会
3/10	常任理事会
3/31	機関紙「岐阜の博物館」第117号発行

## 〔博物館関係団体〕

### 1 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は、「会員相互の連絡提携のもとに社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。

公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うように努力した。

平成9年3月現在、会員館園は136、個人会員は22名、主な役員は次のとおり。

名誉会長…梶原拓 会長…浅野勇 副会長…青木允夫 土野守、清水廣美、理事長…松本五三 事務局は岐阜県博物館内にある。

## 2 岐阜県博物館友の会

設立14年目を迎えた平成8年度は、一般会員681名、後援会員29口を数え、昨年度と比べ大幅な会員の増加を見ることができた。

このことは、会員個々の生涯学習活動への旺盛な参加意欲とともに、岐阜県博物館を側面から支える友の会への期待を表している。また、事業や研修の内容もさらに充実し、密度の濃いものとなったことは、参加者の増加や感想で裏付けることができた。

会員の要望が大きい主催事業の探訪の旅は、海外、国内を含めて3回実施をした。第4回の海外探訪の旅は、「英国の歴史と文化を訪ねて」を行った。エジンバラ（エジンバラ城、ホルロードハウス宮殿ほか）、ストラッドフォード・アポン・エイボン（シェークスピアの生家など）、バース（ローマンバス、ロイヤル・クレスセントほか）、ストーンヘンジ、ロンドン（大英博物館、ロンドン博物館、ナショナルギャラリー、ウィンザー城ほか）を見学し、各施設職員から直接説明を受ける機会を持ち、参加者一同大きな感銘を受けた。加えて、イギリスの歴史と伝統の重みを深く研修することができた。海外探訪の旅については、引き続き実施の要望が強く、平成9年度は中国（シルクロード）研修の実施を検討している。



国内探訪の旅は、鎌倉・小田原（一泊二日）、奈良・法隆寺（日帰り）方面の探訪の旅を実施した。いずれも車中で博物館職員などによる歴史的背景を含めた解説を行って好評を得、定員を超える参加者のもと盛況な研修会となった。

第7回文化講演会は、飛騨美濃合併120周年および博物館会館20周年を記念し、博物館と共催のもと、阿川弘之氏（演題：「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」）山田智彦氏（演題：「岐阜県と私」）の講演会を岐阜市未来会館で開催し、会員を含め480名の聴衆が会場をうめた。

特別行事「七草がゆを食べよう」は、会員手作り行事として定着しており、当日は多くの七草ファンが参加し美味しく炊きあがった「粥」を食べ、和気あいあいのうちに一年の無病息災を祈った。終了後反省会をもった。

博物館事業の普及活動については、夏・秋の記念展の図録の作成や需要の大きい図録の増刷を行い、県広報センター、木曾三川公園、海津町歴史民俗資料館などに販売を委託し、広く県民の購読を願った。

岐阜県博物館の運営に関する「5則」に示されている「博物館事業の普及、会員相互の教養と親睦」を深めることを目指した友の会の活動が「魅力ある博物館」「誰でも参加できる博物館」の健全な運営の一翼を担うことができるよう創意工夫ある企画を進めたい。



会員がボランティアとして活躍した七草がゆ

平成8年度のマな事業、行事は次のとおりである。

### 1 会議

役員会・理事会 4月28日 友の会総会 4月28日

### 2 研修事業

#### (1)探訪の旅

英国の歴史と文化を訪ねて	5/18～5/25	59名
鎌倉・小田原を訪ねて	9/7～9/8	93名
奈良・法隆寺を訪ねて	12/8	150名

#### (2)文化講演会（飛騨美濃合併120周年事業と共催）

「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」		
「岐阜県と私」	11/16	480名

### 3 会報発行

第47号～50号	各500部	A 4	6頁
----------	-------	-----	----

### 4 資料など作成頒布

(1)記念展図録「恐竜のふるさとユタ」	1,400部
「岐阜県の明治維新」	1,000部
(2)図録増刷「飛騨の匠」	1,000部
「土と炎の芸術」	600部

#### (3)岐阜県博物館総合案内などの頒布

### 5 その他

#### (1)博物館との共催事業の実施

特別行事「百年公園・博物館を写生しよう」

「七草がゆを食べよう」

たのしい博物館「徳山の暮らしを体験しよう」

博物館講座「仏像～その形が表すもの～」

#### (2)会員入館料の補助と寄贈

記念展・常設展入館料補助、図書資料寄贈

## Ⅳ 利用案内 (平成9年度)

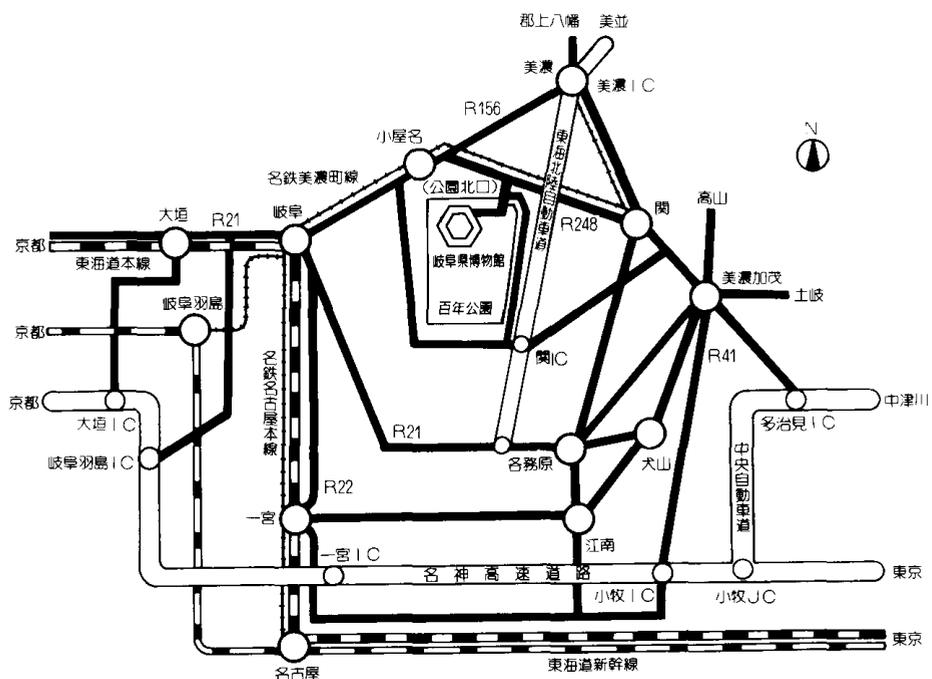
- 開館時間 4月1日～10月31日 9時～16時30分  
11月1日～3月31日 9時30分～16時30分  
(入館は16時まで)

### ●入館料

区分	個人	団体(20人以上)
一般	320円	260円
大学生	110円	50円
小・中・高	無料	無料

※記念展開催中は入館料がかかります。

- 休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)  
年末年始(12月27日～翌年1月4日)
- 駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。  
駐車料金…普通(軽)自動車300円、バス820円
- 交通 名鉄美濃町線 小屋名駅下車 徒歩約15分  
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分  
自家用車をご利用の場合は、百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名字小洞1989 ☎(0575)28-3111(代表) FAX(0575)28-3110

**岐阜県博物館報 第20号** 編集発行 岐阜県博物館  
平成9年(1997) 4月1日発行 印刷 協同印刷株式会社